

[Excerpt translation]

Japanese Unexamined Patent Publication No. 2001-022734
page 3, col. 4, lines 15-21

[0008] In FIG. 19, first, document files in a folder specified at a folder specification box 1902 is displayed in a file name list display area 1903. As one of the document files in the list is selected via a mouse cursor, for example, the content of the document file is displayed in a preview area 1904.

DEVICE AND METHOD FOR INFORMATION PROCESSING, AND COMPUTER-READABLE RECORDING MEDIUM WHERE PROGRAM ALLOWING COMPUTER TO IMPLEMENT THE METHOD IS RECORDED

Publication number: JP2001022734 (A)

Publication date: 2001-01-26

Inventor(s): IWASE FUMIHIKO

Applicant(s): JUST SYST CORP

Classification:

- international: G06F3/048; G06F3/00; G06F12/00; G06F17/21; G06F17/30; G06F3/048; G06F3/00; G06F12/00; G06F17/21; G06F17/30; (IPC1-7): G06F17/21; G06F3/00; G06F12/00; G06F17/30

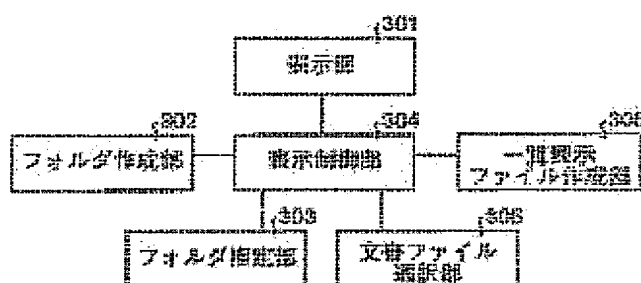
- European:

Application number: JP19990193761 19990707

Priority number(s): JP19990193761 19990707

Abstract of JP 2001022734 (A)

PROBLEM TO BE SOLVED: To easily and efficiently list and display document files so that their contents can be confirmed. **SOLUTION:** This information processor is equipped with a display part 301 which has a display screen, a folder generation part 302 which generates a folder for storing document files generated by an application having a document creating function hierarchically on a storage device or in a specific area on a network, a folder specification part 303 which specifies one of the folders generated by the folder generation part 302, a display control part 304 which lists and displays all or some of the contents of the document files in the folder specified by the folder specifications part 303, a list display file generation part 305 which generates a list display file containing the contents of the document files in the folder specified by the folder specification part 303,; and a document file selection part 306 which selects one of the listed and displayed document files.



Data supplied from the esp@cenet database — Worldwide

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2001-22734

(P2001-22734A)

(43)公開日 平成13年1月26日(2001.1.26)

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テーマコード*(参考)	
G 0 6 F 17/21		G 0 6 F 15/20	5 7 0 N	5 B 0 0 9
3/00	6 5 1	3/00	6 5 1 A	5 B 0 7 5
12/00	5 1 3	12/00	5 1 3 D	5 B 0 8 2
	5 1 5		5 1 5 B	5 E 5 0 1
17/30		15/403	3 2 0 A	
審査請求 有 請求項の数17 O L (全 25 頁) 最終頁に続く				

(21)出願番号 特願平11-193761

(22)出願日 平成11年7月7日(1999.7.7)

(71)出願人 390024350

株式会社ジャストシステム

徳島県徳島市沖浜東3-46

(72)発明者 岩瀬 文彦

徳島市沖浜東3丁目46番地 株式会社ジャ

ストシステム内

(74)代理人 100104190

弁理士 酒井 昭徳

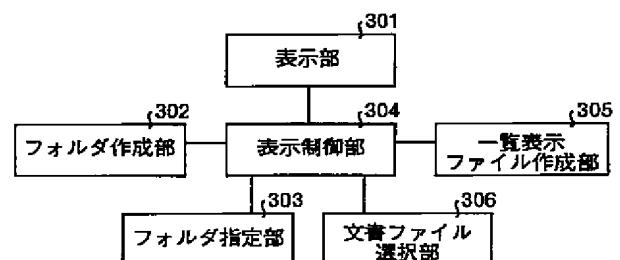
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 情報処理装置、情報処理方法およびその方法をコンピュータに実行させるプログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体

(57)【要約】

【課題】 簡易にかつ効率よく複数の文書ファイルをその各内容が確認できる程度に一覧表示すること。

【解決手段】 表示画面を有する表示部301と、文書作成機能を有するアプリケーションによって作成された複数の文書ファイルを格納するフォルダを、記憶装置またはネットワーク上の所定領域に階層的に作成するフォルダ作成部302と、フォルダ作成部302によって作成された複数のフォルダのうちの一つを指定するフォルダ指定部303と、フォルダ指定部303によって指定されたフォルダ内の複数の文書ファイルの内容の全部または一部を一覧表示する表示制御部304と、フォルダ指定部303によって指定されたフォルダ内の複数の文書ファイルの内容を含んだ一覧表示ファイルを作成する一覧表示ファイル作成部305と、一覧表示された文書ファイルのうちの一つを選択する文書ファイル選択部306と、を備える。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 文書作成機能を有するアプリケーションを実行させる情報処理装置において、表示画面を有する表示手段と、前記アプリケーションによって作成された複数の文書ファイルを格納するフォルダを、記憶装置またはネットワーク上の所定領域に階層的に作成するフォルダ作成手段と、前記フォルダ作成手段によって作成された複数のフォルダのうちの一つを指定するフォルダ指定手段と、前記表示手段を制御して、前記フォルダ指定手段によって指定されたフォルダ内の複数の文書ファイルの内容の全部または一部を一覧表示する表示制御手段と、を備えたことを特徴とする情報処理装置。

【請求項 2】 さらに、前記フォルダ指定手段によって指定されたフォルダ内の複数の文書ファイルの内容を含んだ一覧表示ファイルを作成する一覧表示ファイル作成手段を備え、前記表示制御手段は、前記一覧表示ファイルを読み込むことにより、前記複数の文書ファイルを一覧表示することを特徴とする請求項 1 に記載の情報処理装置。

【請求項 3】 前記表示制御手段は、前記フォルダ指定手段によって指定されたフォルダ内の複数の文書ファイルのテキスト情報のみを抽出して一覧表示することを特徴とする請求項 1 に記載の情報処理装置。

【請求項 4】 前記表示制御手段は、前記複数の文書ファイルの各内容を、縦並び形式に一覧表示することを特徴とする請求項 1、2 または 3 に記載の情報処理装置。

【請求項 5】 前記表示制御手段は、前記複数の文書ファイルの各内容を、格子状に一覧表示することを特徴とする請求項 1、2 または 3 に記載の情報処理装置。

【請求項 6】 さらに、前記表示制御手段によって一覧表示された文書ファイルのうちの一つを選択する文書ファイル選択手段を備え、前記表示制御手段は、

前記文書ファイル選択手段によって選択された文書ファイルの内容を、文書ファイルが一覧表示される領域に全面表示することを特徴とする請求項 1～5 のいずれか一つに記載の情報処理装置。

【請求項 7】 さらに、前記表示制御手段によって一覧表示された文書ファイルのうちの一つを選択する文書ファイル選択手段を備え、

前記表示制御手段は、前記文書ファイル選択手段によって選択された文書ファイルを、前記アプリケーション上に表示させることを特徴とする請求項 1～6 のいずれか一つに記載の情報処理

装置。

【請求項 8】 前記表示制御手段は、各文書ファイルの表示領域ごとに、文書ファイルの全内容をスクロール表示する第 1 のスクロール手段を付して表示するとともに、文書ファイルが一覧表示される領域に、前記フォルダ指定手段によって指定されたフォルダ内のすべての文書ファイルをスクロール表示する第 2 のスクロール手段を付して表示することを特徴とする請求項 1～7 のいずれか一つに記載の情報処理装置。

10 【請求項 9】 文書作成機能を有するアプリケーションを実行させる情報処理方法において、前記アプリケーションによって作成された複数の文書ファイルを格納するフォルダを、記憶装置またはネットワーク上の所定領域に階層的に作成するフォルダ作成工程と、前記フォルダ作成手段によって作成された複数のフォルダのうちの一つを指定するフォルダ指定工程と、前記フォルダ指定工程によって指定されたフォルダ内の複数の文書ファイルの内容の全部または一部を一覧表示する表示工程と、を含んだことを特徴とする情報処理方法。

20 【請求項 10】 さらに、前記フォルダ指定工程によって指定されたフォルダ内の複数の文書ファイルの内容を含んだ一覧表示ファイルを作成する一覧表示ファイル作成工程を備え、前記表示工程は、前記一覧表示ファイルを読み込むことにより、前記複数の文書ファイルを一覧表示することを特徴とする請求項 9 に記載の情報処理方法。

30 【請求項 11】 前記表示工程は、前記フォルダ指定工程によって指定されたフォルダ内の複数の文書ファイルのテキスト情報のみを抽出して一覧表示することを特徴とする請求項 9 に記載の情報処理方法。

【請求項 12】 前記表示工程は、前記複数の文書ファイルの各内容を、縦並び形式に一覧表示することを特徴とする請求項 9、10 または 11 に記載の情報処理方法。

40 【請求項 13】 前記表示工程は、前記複数の文書ファイルの各内容を、格子状に一覧表示することを特徴とする請求項 9、10 または 11 に記載の情報処理方法。

【請求項 14】 さらに、前記表示工程によって一覧表示された文書ファイルのうちの一つを選択する文書ファイル選択工程を含み、

前記表示工程は、前記文書ファイル選択工程によって選択された文書ファイルの内容を、文書ファイルが一覧表示される領域に全面表示することを特徴とする請求項 9～13 のいずれか一つに記載の情報処理工程。

【請求項15】 さらに、前記表示工程によって一覧表示された文書ファイルのうちの一つを選択する文書ファイル選択工程を含み、

前記表示工程は、

前記文書ファイル選択工程によって選択された文書ファイルを、前記アプリケーション上に表示させることを特徴とする請求項9～14のいずれか一つに記載の情報処理方法。

【請求項16】 前記表示工程は、

各文書ファイルの内容をスクロール表示するとともに、前記フォルダ指定工程によって指定されたフォルダ内のすべての文書ファイルをスクロール表示することとを特徴とする請求項9～15のいずれか一つに記載の情報処理方法。

【請求項17】 前記請求項9～16のいずれか一つに記載された方法をコンピュータに実行させるプログラムを記録したことを特徴とするコンピュータ読み取り可能な記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、複数の文書ファイルをその各内容が確認できる程度に一覧表示する情報処理装置、情報処理方法およびその方法をコンピュータに実行させるプログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体に関する。

【0002】

【従来の技術】近年のデジタル情報社会においては、パーソナルコンピュータ等の情報処理装置を用いて業務を遂行することは、作業効率の向上、情報管理の最適化および紙資源の浪費防止といった観点から必須となっている。特に、近年においては、通信インフラの整備にともない、単に文書やデータを作成するだけでなく、インターネット等のネットワークを通じて、情報を収集し、収集された情報を加工することが多くなっている。

【0003】その中でも、文書作成処理は、企業の基幹業務において基本となる作業であり、また個人においても、この処理を効率よくおこなうためにパーソナルコンピュータを活用している場合が多い。よって、過去に亘って作成された文書ファイルの数も必然と膨大な量となり、これら文書ファイルの管理もまた必須となってくる。

【0004】これら文書の簡便な管理方法としては、分類整理するフォルダの作成とともに、各文書ファイルに付けるファイル名を工夫することが挙げられる。すなわち、フォルダ名と、そこに格納されているファイル名とからその文書ファイルの内容を推測することができる。

【0005】この方法では、比較的少数の文書ファイルの管理に対しては有効となるが、遠い過去に作成された文書ファイルが存在する場合や、ファイル名だけでは他の文書ファイルの内容とは区別することができないよう

な文書ファイルが存在する場合には、それら文書ファイルを、作成元のワードプロセッサ・アプリケーションを用いてその都度開いて確認する必要性が生じてくる。

【0006】一般に、この文書ファイルの内容確認方法として、ワードプロセッサ・アプリケーションの動作状態において、編集しようとする文書ファイルを選択する際に、開こうとする文書ファイルの内容を確認できるビューア機能を実行させる方法がある。

【0007】図19は、従来の情報処理装置において動作するビューア機能の一例を説明するための説明図である。図19に示すように、従来のワードプロセッサ・アプリケーション上のビューア機能は、文書ファイルを開く際の作業となる文書ファイルの選択において、文書ファイル選択ダイアログ1901上で実現される。

【0008】図19において、まず、ファイル名一覧表示領域1903に、フォルダ指定ボックス1902によって指定されたフォルダ内の文書ファイルが表示される。この際、一覧表示された文書ファイルの一つをマウスカーソル等によって選択状態にすることで、その文書ファイルの内容がプレビュー領域1904に表示される。

【0009】こうして、文書ファイルを実際において編集作業に移行する前に、その内容を確認することができ、編集したい内容を有した文書を探索することができる。なお、一般に上記したプレビュー領域1904には、スクロールバーが付されており、この文書ファイルの内容をスクロール表示して、その全体を閲覧することができる。

【0010】また、上記したビューア機能を単独のウィンドウ画面により実現する場合や、そのビューア機能を実行させる専用のアプリケーションであるビューア・アプリケーションが利用される場合もある。図20は、従来の情報処理装置において動作するビューア機能の他の例を説明するための説明図である。

【0011】この例では、図20に示すように、まず、上記同様、ファイル名一覧表示領域2003に、フォルダ指定ボックス2002によって指定されたフォルダ内の文書ファイルが表示される文書ファイル選択ダイアログにおいて、内容確認対象となる文書ファイルを選択する。そして、選択された文書ファイルは、内容表示専用のプレビュー・ウィンドウ画面2004上に表示される。

【0012】このように独立したプレビュー・ウィンドウ画面2004による文書ファイルのプレビューは、文書ファイル選択ダイアログにおいて、つぎつぎと文書ファイルを選択することで、選択された文書ファイルの内容を表示したウィンドウ画面が、その都度新たに表示することができるという利点がある。

【0013】すなわち、表示装置の表示画面上において、複数のプレビュー・ウィンドウ画面が表示され、こ

れらプレビュー・ウインドウ画面間において、その表示内容を比較することができ、わずかな違いのみの文書ファイルを区別することが可能となり、特に、表示された文書ファイルの一部の文書データをコピーして、新規な文書に貼り付けるといった利用方法をより有効なものとするができる。

【0014】

【発明が解消しようとする課題】しかしながら、上記した従来のビューア機能では、文書ファイルの一つずつ選択するという作業が必要となり、内容を確認したい文書ファイルのファイル名を全く検討つけることができない場合には、存在する文書ファイルの数に比例して、その確認作業に膨大な時間を要してしまうといった問題点があった。

【0015】また、図20に示した例のように、複数の文書ファイルの内容を同時に確認する場合でも、上記した文書ファイルの選択作業は回避できず、特に、この場合、表示画面上に表示される複数のプレビュー・ウインドウ画面は、通常、互いに重なり合って乱雑に配置され、これらプレビュー・ウインドウ画面間の内容を比較しようとする際には、プレビュー・ウインドウ画面の配置整理を必要とし、多大な労力を生じてしまうという問題点があった。

【0016】さらに、複数のグラフィック・データファイルに対しては、図形プロセッサ・アプリケーションに備える機能等によって、それらグラフィック・データの内容を縮小して一覧表示するサムネイル表示をおこなうことが可能であった。

【0017】しかしながら、グラフィック・データは、レイアウトのみの確認によってその内容を認識することが可能である場合が多く、上記したサムネイル表示によっても複数のグラフィック・データの内容を一度に確認することができるが、文書ファイルに対しては、少なくともそれに記載された文字を認識する必要があり、サムネイル表示による内容確認を適用することができなかった。

【0018】この発明は、上述した従来例よる問題点を解消するため、簡易にかつ効率よく複数の文書ファイルをその各内容が確認できる程度に一覧表示することができる情報処理装置、情報処理方法およびその方法をコンピュータに実行させるプログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体を提供することを目的とする。

【0019】

【課題を解決するための手段】上述した課題を解決し、目的を達成するため、請求項1の発明に係る情報処理装置は、文書作成機能を有するアプリケーションを実行させる情報処理装置において、表示画面を有する表示手段と、前記アプリケーションによって作成された複数の文書ファイルを格納するフォルダを、記憶装置またはネッ

トワーク上の所定領域に階層的に作成するフォルダ作成手段と、前記フォルダ作成手段によって作成された複数のフォルダのうちの一つを指定するフォルダ指定手段と、前記表示手段を制御して、前記フォルダ指定手段によって指定されたフォルダ内の複数の文書ファイルの内容の全部または一部を一覧表示する表示制御手段と、を備えたことを特徴とする。

【0020】この請求項1の発明によれば、指定されたフォルダ内に格納された複数の文書ファイルの内容の全部または一部を一覧表示することができ、複数の文書の内容を同時に確認できる。

【0021】また、請求項2の発明に係る情報処理装置は、請求項1の発明において、さらに、前記フォルダ指定手段によって指定されたフォルダ内の複数の文書ファイルの内容を含んだ一覧表示ファイルを作成する一覧表示ファイル作成手段を備え、前記表示制御手段は、前記一覧表示ファイルを読み込むことにより、前記複数の文書ファイルを一覧表示することを特徴とする。

【0022】この請求項2の発明によれば、指定されたフォルダ内に格納された複数の文書ファイルの内容を含んだ一覧表示ファイルを作成し、この一覧表示ファイルを読み込むことで、複数の文書ファイルを一覧表示することができ、複数の文書の内容を同時に確認できる。

【0023】また、請求項3の発明に係る情報処理装置は、請求項1の発明において、前記表示制御手段が、前記フォルダ指定手段によって指定されたフォルダ内の複数の文書ファイルのテキスト情報のみを抽出して一覧表示することを特徴とする。

【0024】この請求項3の発明によれば、指定されたフォルダ内に格納された複数の文書ファイルのテキスト情報のみを抽出して一覧表示することができ、文書内容を確認するのに最低限必要な情報を提示できる。

【0025】また、請求項4の発明に係る情報処理装置は、請求項1、2または3の発明において、前記表示制御手段が、前記複数の文書ファイルの各内容を、縦並び形式に一覧表示することを特徴とする。

【0026】この請求項4の発明によれば、複数の文書ファイルの各内容を、縦並び形式に一覧表示することができる。

【0027】また、請求項5の発明に係る情報処理装置は、請求項1、2または3の発明において、前記表示制御手段が、前記複数の文書ファイルの各内容を、格子状に一覧表示することを特徴とする。

【0028】この請求項5の発明によれば、複数の文書ファイルの各内容を、格子状に一覧表示することができる。

【0029】また、請求項6の発明に係る情報処理装置は、請求項1～5のいずれか一つの発明において、さらに、前記表示制御手段によって一覧表示された文書ファイルのうちの一つを選択する文書ファイル選択手段を備

え、前記表示制御手段が、前記文書ファイル選択手段によって選択された文書ファイルの内容を、文書ファイルが一覧表示される領域に全面表示することを特徴とする。

【0030】この請求項6の発明によれば、一覧表示された文書ファイルのうちの一つの文書内容を、文書ファイルが一覧表示される領域に全面表示することができる。

【0031】また、請求項7の発明に係る情報処理装置は、さらに、前記表示制御手段によって一覧表示された文書ファイルのうちの一つを選択する文書ファイル選択手段を備え、前記表示制御手段が、前記文書ファイル選択手段によって選択された文書ファイルを、前記アプリケーション上に表示させることを特徴とする。

【0032】この請求項7の発明によれば、一覧表示された文書ファイルのうちの一つの文書内容を、その文書の作成において用いた文書作成機能を有するアプリケーション上に表示することができる。

【0033】また、請求項8の発明に係る情報処理装置は、前記表示制御手段が、各文書ファイルの表示領域ごとに、文書ファイルの全内容をスクロール表示する第1のスクロール手段を付して表示するとともに、文書ファイルが一覧表示される領域に、前記フォルダ指定手段によって指定されたフォルダ内のすべての文書ファイルをスクロール表示する第2のスクロール手段を付して表示することを特徴とする。

【0034】この請求項8の発明によれば、各文書ファイルごとにその文書ファイルの内容をスクロール表示することができるとともに、指定されたフォルダ内のすべての文書ファイルを文書ファイルの表示領域単位にスクロール表示することができる。

【0035】また、請求項9の発明に係る情報処理方法は、文書作成機能を有するアプリケーションを実行させる情報処理方法において、前記アプリケーションによって作成された複数の文書ファイルを格納するフォルダを、記憶装置またはネットワーク上の所定領域に階層的に作成するフォルダ作成工程と、前記フォルダ作成手段によって作成された複数のフォルダのうちの一つを指定するフォルダ指定工程と、前記フォルダ指定工程によって指定されたフォルダ内の複数の文書ファイルの内容の全部または一部を一覧表示する表示工程と、を含んだことを特徴とする。

【0036】この請求項9の発明によれば、指定されたフォルダ内に格納された複数の文書ファイルの内容の全部または一部を一覧表示することができ、複数の文書の内容を同時に確認できる。

【0037】また、請求項10の発明に係る情報処理方法は、請求項9の発明において、さらに、前記フォルダ指定工程によって指定されたフォルダ内の複数の文書ファイルの内容を含んだ一覧表示ファイルを作成する一覧

表示ファイル作成工程を備え、前記表示工程が、前記一覧表示ファイルを読み込むことにより、前記複数の文書ファイルを一覧表示することを特徴とする。

【0038】この請求項10の発明によれば、指定されたフォルダ内に格納された複数の文書ファイルの内容を含んだ一覧表示ファイルを作成し、この一覧表示ファイルを読み込むことで、複数の文書ファイルを一覧表示することができ、複数の文書の内容を同時に確認できる。

【0039】また、請求項11の発明に係る情報処理方法は、請求項9の発明において、前記表示工程が、前記フォルダ指定工程によって指定されたフォルダ内の複数の文書ファイルのテキスト情報のみを抽出して一覧表示することを特徴とする。

【0040】この請求項11の発明によれば、指定されたフォルダ内に格納された複数の文書ファイルのテキスト情報のみを抽出して一覧表示することができ、文書内容を確認するのに最低限必要な情報を提示できる。

【0041】また、請求項12の発明に係る情報処理方法は、請求項9、10または11の発明において、前記表示工程が、前記複数の文書ファイルの各内容を、縦並び形式に一覧表示することを特徴とする。

【0042】この請求項12の発明によれば、複数の文書ファイルの各内容を、縦並び形式に一覧表示することができる。

【0043】また、請求項13の発明に係る情報処理方法は、請求項9、10または11の発明において、前記表示工程が、前記複数の文書ファイルの各内容を、格子状に一覧表示することを特徴とする。

【0044】この請求項13の発明によれば、複数の文書ファイルの各内容を、格子状に一覧表示することができる。

【0045】また、請求項14の発明に係る情報処理方法は、請求項9～13のいずれか一つの発明において、さらに、前記表示工程によって一覧表示された文書ファイルのうちの一つを選択する文書ファイル選択工程を含み、前記表示工程が、前記文書ファイル選択工程によって選択された文書ファイルの内容を、文書ファイルが一覧表示される領域に全面表示することを特徴とする。

【0046】この請求項14の発明によれば、一覧表示された文書ファイルのうちの一つの文書内容を、文書ファイルが一覧表示される領域に全面表示することができる。

【0047】また、請求項15の発明に係る情報処理方法は、請求項9～14のいずれか一つの発明において、さらに、前記表示工程によって一覧表示された文書ファイルのうちの一つを選択する文書ファイル選択工程を含み、前記表示工程が、前記文書ファイル選択工程によって選択された文書ファイルを、前記アプリケーション上に表示させることを特徴とする。

【0048】この請求項15の発明によれば、一覧表示

された文書ファイルのうちの一つの文書内容を、その文書の作成において用いた文書作成機能を有するアプリケーション上に表示することができる。

【0049】また、請求項16の発明に係る情報処理方法は、請求項9～15のいずれか一つの発明において、前記表示工程が、各文書ファイルの内容をスクロール表示するとともに、前記フォルダ指定工程によって指定されたフォルダ内のすべての文書ファイルをスクロール表示することを特徴とする。

【0050】この請求項16の発明によれば、各文書ファイルごとにその文書ファイルの内容をスクロール表示することができるとともに、指定されたフォルダ内のすべての文書ファイルを文書ファイルの表示領域単位にスクロール表示することができる。

【0051】また、請求項17の発明に係る記憶媒体は、請求項9～16に記載された方法をコンピュータに実行させるプログラムを記録したことで、そのプログラムを機械読み取り可能となり、これによって、請求項9～16の動作をコンピュータによって実現することが可能である。

【0052】

【発明の実施の形態】以下に添付図面を参照して、この発明に係る情報処理装置、情報処理方法およびその方法をコンピュータに実行させるプログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体の好適な実施の形態を詳細に説明する。

【0053】まず、この発明の本実施の形態による情報処理装置のハードウェア構成を説明する。図1は、本実施の形態による情報処理装置のハードウェア構成を示すブロック図である。

【0054】図1において、101はシステム全体を制御するCPUを、102はブートプログラム等を記憶したROMを、103はCPU101のワークエリアとして使用されるRAMを、104はCPU101の制御にしたがってHD（ハードディスク）105に対するデータのリード／ライトを制御するHDD（ハードディスクドライブ）を、105はHDD104の制御で書き込まれたデータを記憶するHDを、それぞれ示している。

【0055】また、106はCPU101の制御にしたがってFD（フロッピー（登録商標）ディスク）107に対するデータのリード／ライトを制御するFDD（フロッピーディスクドライブ）を、107はFDD106の制御で書き込まれたデータを記憶する着脱自在のFDを、108は、ドキュメント、画像、機能情報等のデータに関するウィンドウを表示するディスプレイを、それぞれ示している。

【0056】また、109は通信回線110を介してネットワークNETに接続され、そのネットワークNETと内部のインターフェイスを司るインターフェイス（I/F）を、111は文字、数値、各種指示等の入力のため

めのキーを備えたキーボードを、112はカーソルの移動や範囲選択、あるいはウィンドウの移動やサイズの変更等をおこなうマウスを、113は画像を光学的に読み取るスキャナを、114はウィンドウに表示された内容等を印刷するプリンタを、115は、着脱可能な記録媒体であるCDROMを、116は、CDROM115に対するデータのリードを制御するCDROMドライブを、それぞれ示している。また、各部はバス100により接続されている。

【0057】また、図2は、本実施の形態による情報処理装置において動作可能なアプリケーションの構成例を示す説明図である。図2に示すように、本実施の形態による情報処理装置は、以下に説明するような各種アプリケーションを、上記したHD105にインストールした状態で起動させるか、CDROM115から直接起動することによって、実行させることが可能である。

【0058】図2に示すアプリケーション構成は、各種アプリケーションによって作成されたデータファイルを管理する情報ボックス（データベース）200と、情報検索アプリケーション203と、が含まれており、各アプリケーションは、この情報ボックス200と情報検索アプリケーション203とを利用することで、HD105等に格納されるデータファイルに効率よくアクセスすることが可能である。

【0059】まず、本実施の形態による情報処理装置は、図2に示すように、通常の業務処理において頻繁に使用されるアプリケーションとして、

1. ワードプロセッサ・アプリケーション201
 2. 図形プロセッサ・アプリケーション202
 3. 表計算（スプレッド・シート）アプリケーション204
 4. リレーショナル・データベース・アプリケーション205
 5. 日本語変換アプリケーション206
- を搭載して実行可能な環境に設定されている。

【0060】また、近年のネットワーク、特にインターネットの通信インフラの整備と、多様な情報収集やより広域なデータ送受信の要望とから、以下のインターネット・ツール・アプリケーションを搭載して利用されることが多い。

6. インターネット・メーカー・アプリケーション207
7. ネットワーク対応スケジューラー・アプリケーション208
8. インターネット・ブラウザ・アプリケーション209
9. Webサイト巡回アプリケーション210
10. ダイアルアップ・アプリケーション211

【0061】さらに、上記アプリケーションの連携を強化するための以下のツール・アプリケーションも同時に

搭載し、作業の効率化を高めている。

- 1 1. ファイル検索ツール・アプリケーション 2 1 2
- 1 2. マクロ編集ツール・アプリケーション 2 1 3
- 1 3. 数式作成ツール・アプリケーション 2 1 4
- 1 4. フォント・エフェクト・ツール・アプリケーション 2 1 5
- 1 5. グラフ作成ツール・アプリケーション 2 1 6
- 1 6. 連続印刷ツール・アプリケーション 2 1 7
- 1 7. 文章表現辞典アプリケーション 2 1 8

【0062】なお、上記したアプリケーション構成は、使用目的を共通として開発メーカのみが異なる場合、たとえば、1. ワードプロセッサ・アプリケーション 2 0 1 として機能や仕様に違いはあるが文書作成を目的として、A社開発のものとB社開発のものが同時に搭載される場合も含んでいる。

【0063】つぎに、各アプリケーションの概要について説明する。

(1. ワードプロセッサ・アプリケーション 2 0 1) ワードプロセッサ・アプリケーション 2 0 1は、文書作成を主目的とするアプリケーションであり、本実施の形態による情報処理装置の動作態様は、このワードプロセッサ・アプリケーション 2 0 1の一機能としての動作される場合を含んでいる。ここでは、その特徴の説明を後述することにし、まず、一般的なワードプロセッサ・アプリケーション 2 0 1の動作態様について説明する。

【0064】ワードプロセッサ・アプリケーション 2 0 1は、上記したツール・アプリケーションを組み込むことによって、多彩な表現の文書の作成を可能とするだけでなく、本実施の形態による情報検索装置に搭載された情報検索アプリケーション 2 0 3を利用することによって、作成された文書（データファイル）のライフサイクルをより幅広くカバーすることも可能である。

【0065】ここで、情報検索アプリケーション 2 0 3は、類似検索技術に基づく文書作成支援機能を有しており、これによって必要な情報を、ワードプロセッサ・アプリケーション 2 0 1のみならず、他のアプリケーション上から直接呼び出し、活用することができる。情報検索アプリケーション 2 0 3の内容については後述する。

【0066】また、ワードプロセッサ・アプリケーション 2 0 1は、定型文書の作成を支援するドキュメント・ナビゲーション機能を有しており、文書の再利用化やネットワーク上での共有化により、業務処理の生産性を向上させている。

【0067】このドキュメント・ナビゲーション機能は、報告書やFAX送付書などの定型文書の作成をナビゲートする機能であり、ワードプロセッサ・アプリケーション 2 0 1上においてこの機能を実行させることで、実行可能なコマンドや動作画面の変更等、作成する文書の種類に合わせその文書作成に最適な操作環境を与えるものである。

【0068】たとえば、実行コマンド選択メニューが、その文書に最適なものに絞り込まれ、また文書作成に対する適切なコマンドや内容に関するアドバイスを表示することが可能となる。これにより、企業内等での定型文書作成の手間を大幅に削減することができる。

【0069】具体的には、ドキュメント・ナビゲーション機能を実現させる雛型文書となるナビゲーションテンプレートの選択により、その文書に必要なメニューのみが表示され、ナビゲーションにしたがって内容を埋めていくだけで簡単にすばやく目的の文書を作成することができる。

【0070】また、ドキュメント・ナビゲーション機能によって作成されたドキュメント・ナビゲーション情報は共有することもでき、たとえば、共有フォルダやファイルを「仮想フォルダ」として一括管理し、それを複数のメンバーで共有できる。このドキュメント・ナビゲーションの情報共有機能を利用することで、特別なグループウェア製品を導入することなく連絡書や仕様書、定型文書などの情報を共有化することが可能である。

【0071】たとえば、部署内だけで共有したい情報としての報告書類、今週の予定、社内書類などを、一目で分かる形にまとめて共有することができる。また、この共有文書情報は、簡単に追加・修正できるので、ボトムアップ的な情報共有が実現できる。

【0072】(2. 図形プロセッサ・アプリケーション 2 0 2) 図形プロセッサ・アプリケーションは、精密な図形を簡易なインターフェイスで描画できるグラフィックソフトウェアである。オフィスでは文字と図形が混在した企画書や報告書などの作成に、家庭ではカードや各種案内状の作成に、専門分野では精密で精度が要求される製図などの作成にと、さまざまな用途で使うことができる。

【0073】さらに、ペイント&フォトタッチ機能を有し、デジタルカメラやスキャナから取り込んだ画像の加工・編集も容易におこなうことができる。加工した画像は、図形プロセッサ・アプリケーション 2 0 2のインターネット/イントラネット対応機能を使ってホームページなどで広く公開することもできる。

【0074】また、図形プロセッサ・アプリケーション 2 0 2は、作図操作における一連のプロセスにおいて、むだのない効率的な操作性を実現しており、直感的操作で目的のグラフィックスを容易に作成することができる。直感的操作には、たとえば、添付された豊富な部品を利用する等があり、これにより、図形を並べる感覚で図面やイラスト入りの文書の作成をすることができる。

【0075】これらを実現するために、図形プロセッサ・アプリケーション 2 0 2は、さらに、以下に示すような機能を備えることもできる。

【0076】(1) ワードプロセッサ・アプリケーション透過編集機能

- (2) 他社ファイルコンバータの追加・拡張機能
- (3) マクロボックスのコンバート機能
- (4) ペイント&レタッチ機能 (フォトレタッチ)
- (5) 画像データ管理機能 (デジビュー)
- (6) スナップ機能
- (7) テンプレート図形機能
- (8) ワークスペース機能

【0077】 (1) ワードプロセッサ・アプリケーション透過編集機能

透過編集機能とは、これまでのワードプロセッサ・アプリケーションの「簡易作図」の代わりに、図形プロセッサ・アプリケーション202を起動することによって、OLE (Object Linking and Embedding) によるインプレース編集以上のよりシームレスな作図環境を実現する機能である。これにより、ワードプロセッサ・アプリケーション201との親和性をより高める透過編集が可能となる。

【0078】 よって、ワードプロセッサ・アプリケーション201の文書を表示させたまま図形プロセッサ・アプリケーション202の機能がそのまま使用でき、詳細な図形を描画することができる。また、非表示の切り替えもおこなうことができる。描画した図形をワードプロセッサ・アプリケーション201の文書の下や上にすることができ、図形を透過させることも可能である。

【0079】 また、ワードプロセッサ・アプリケーション201の簡易作図機能で作成した図形も図形プロセッサ・アプリケーション202を使って編集することができる。さらに、作成された図形がそのままワードプロセッサ・アプリケーション201の文書の図形として利用することもできる。

【0080】 ワードプロセッサ・アプリケーション201の簡易作図にない図形プロセッサ・アプリケーション202のテンプレート図形もワードプロセッサ・アプリケーション201上に持っていくことが可能である。さらに、再度、透過編集を起動しても図形プロセッサ・アプリケーション202上ではテンプレート図形として編集をおこなうことができる。

【0081】 (2) 他社ファイルコンバータの追加・拡張機能

この機能により、たとえば、EPS (Encapsulated PostScript) ファイル等の慣用化されているグラフィックファイル形式の読み込み・出力ができ、他社製品で作成されたデータを図形プロセッサ・アプリケーション202の図形として利用することができる。

【0082】 (3) マクロボックスのコンバート機能
一般にアプリケーションの開発は、バージョンの更新により機能を追加することで、同シリーズの図形プロセッサ・アプリケーション202においても認識可能なファイル形式や機能の互換性が制限されることが多く、特に

このようなアプリケーションにおいては、ユーザーによる機能の追加を可能とするマクロ言語を搭載することが主流となっている。

【0083】 そこで、このマクロ言語に関する互換性向上のために、旧バージョンの図形プロセッサ・アプリケーション202のマクロボックスを、図面マクロまたはシステムマクロとして登録することができる。これにより、DTP (Desk Top Publishing) やCAD (Computer Aided Design) などの生産性向上を図ることができる。

【0084】 (4) ペイント&フォトレタッチ機能
ペイント&フォトレタッチ機能は、デジタルカメラやスキャナなどを使って取り込んだ写真などの画像に、簡単に補正や効果をほどこすことにより、個性的な作品に加工できる機能である。

【0085】 (5) 画像データ管理機能
画像をファイル名だけで管理するのは大変煩雑であるが、画像データ管理機能とは、この煩雑さを解消するため、図形プロセッサ・アプリケーション202の部品はもちろん、J-P E G (Joint Photographic Experts Group) 形式やBMP (BITMAP) 形式など、さまざまなファイル形式の画像データを一元的に管理する機能である。

【0086】 画像や部品を一覧して、そこから必要なものを選択し、ワードプロセッサ・アプリケーション201や図形プロセッサ・アプリケーション202で利用することができる。

【0087】 (6) スナップ機能
スナップ機能は、通常のマウス操作では困難であった特定の点への正確なポインティングを簡単におこなう機能である。図形にマウスを近づけるだけで、ポインタをもっとも近い端点・中点・交点などに正確に置くことができる。また、グリッド・スケール・補助線の交線などへのポインティングもおこなうことができる。これによって高精度な描画を実現する。

【0088】 (7) テンプレート図形機能
テンプレート図形機能とは、ユーザーが高精度の図形を効率的に作成できるように、テンプレート図形を多数搭載して、このテンプレート図形をすぐに利用できるようにした機能である。正円・楕円・矩形といった基本的な図形のほか、星や矢印など、利用頻度の高い図形のほとんどをサポートしている。特に、直方体・多角形・幅付矢印・平行線・線路などのテンプレート図形は、図形自体を変形できるコントロール・ハンドルを備えており、簡単な操作で立体図や地図などの作成をおこなうことができる。

【0089】 (8) ワークスペース機能
これは、編集対象となる用紙外にワークスペースを設け、そこへ図形を仮置しながら効率的にレイアウト作業を進めることができる機能である。ワークスペースの図

形は印刷されないので、作業効率向上を図る上でも効果的である。

【0090】（3．表計算アプリケーション204）表計算アプリケーション204は、上述したデータシートによって、行および列の形に配置した要素（セル）の表を表示するソフトウェアであり、一つの要素の内容を変更すると、要素相互間で利用者があらかじめ定義した関係に基づいて再計算ができるとともに、そのグラフ表示を可能とする。

【0091】また、日本語特有の数値表示（兆億万単位表示）やワードプロセッサ・アプリケーション201と同等の表現力、そして優れたユーザーインターフェイスなどを有し、機能性と操作性の両立が図られている。表計算アプリケーション204は、たとえば以下のような主要機能を備えている。

- 【0092】（1）テキスト枠機能
- （2）アウトライン機能
- （3）マクロ記録機能
- （4）セル結合機能
- （5）表示モード機能
- （6）日本語特有の表記機能

【0093】（1）テキスト枠機能

これは、表計算アプリケーション204のデータシート上の任意の位置に自由に文字列を入力・配置することができる機能である。具体的には、データシート上の自由な位置に「テキスト枠」を貼り付け、文字を入力する。テキスト枠は、データシート上の任意の場所にいくつでも貼り付けることができ、文字列に対しては文字飾りや文字サイズを設定できる。また、1つのテキスト枠の入力可能な文字数に制限はない。テキスト枠を使用することにより、グラフや表、文章の混在したレポートの作成などにも活用することができる。

【0094】（2）アウトライン機能

月ごと売上げ表やデータベース表などは、項目間で親子関係を持っている場合がある。たとえば、集計表における小計項目・大計項目などである。アウトライン機能とは、この場合に、アウトラインを設定して、小計項目・大計項目を階層化し、マウス1クリックで絞り込まれている行を表示したり、絞り込んで非表示にしたりする機能である。

【0095】具体的には、階層化の状態が一目で分かるツリー表示をおこない、また、マウス1クリックで表示・非表示の切り替えが可能である。上向きのツリー表示、下向きのツリー表示のどちらでも設定可能であり、行だけでなく、列にも設定可能である。さらに、数式の参照関係を解析し、自動的にアウトラインを設定できる。

【0096】（3）マクロ記録機能

マクロ記録機能は、作成したいマクロのコマンドを実行すると、それに対応するオブジェクト式を自動的に記録

してくれるものである。したがって、最初から複雑なマクロを記述することは不要となる。

【0097】（4）セル結合機能

セル結合機能は、複数のセルを一つのセルとして扱うことができる。したがって、これまで面倒だった複雑な帳票の作成や、複数のセルにまたがる文字列の入力がとても簡単になる。特に、複数のセルにまたがる縦に長い文字列の入力が簡単になり、複雑な帳票の作成や長い文字列の入力などが可能になり、分かりやすく見栄えのよいシートを作成することができる。

【0098】（5）表示モード機能

表計算アプリケーション204の表示モードとして、行幅を文字列の高さに固定して表示するモードを有する。これにより、行幅が文字列よりも狭くならないように設定できるため、画面上において常に見やすい状態で編集作業をおくことができる。さらに、印刷の都合で行幅を狭くしなければならない場合でも、画面上では文字が欠けることなく、見やすい状態で編集が可能である。

【0099】（6）日本特有の表記機能

20 表計算アプリケーション204は、数値表示の「兆億万」単位表示をはじめ、「時分秒」「第一四半期」「千円、百万円」表現、さらには△（マイナス記号）なども表記することができる。セルへの表示形式は、アプリケーション共通の書式を使用してカスタマイズすることができる。

【0100】（4．リレーショナル・データベース・アプリケーション205）リレーショナル・データベース・アプリケーション205は、基本機能の強化・充実を図るとともに、オフィスのデータベースとしての使い勝手を徹底的に追究し、これまで複雑だったデータベース操作を、表計算アプリケーションのような感覚で扱えるようにした。

【0101】さらに、他のリレーショナル・データベース用の接続ドライバを搭載するなど、基幹系RDB（Relational DataBase）クライアントとしての機能も装備している。

【0102】さらに、データコンバート機能も備え、リレーショナル・データベース・アプリケーション205で作成したデータベースのサーバへの移行や、他社データベースおよび表計算アプリケーションからのデータ取り込みも可能である。リレーショナル・データベース・アプリケーション205は、たとえば以下のような主要機能を備えている。

【0103】（1）表定義機能

（2）データ変換機能

（3）表オープン履歴の記憶機能

（4）絞込条件設定機能

（5）書式登録機能

（6）日本語特有の一覧項目書式機能

【0104】（1）表定義機能

表定義機能とは、作成するデータベースの目的・用途の選択（具体的にはビジネス用、パーソナル用等に分類されたテンプレートの選択）をおこなうだけで表定義をおこなうことができる機能である。

【0105】さらに、画面帳票による表定義機能を備えて、カード型データベースを扱うように、画面上に項目を並べていくだけで表定義をおこなうことができる。作成した画面は、そのまま画面帳票として利用することができる。表定義のための項目には標準的な項目のほか、上記のテンプレートで提供されるものも含まれる。

【0106】（2）データ変換機能

表計算アプリケーションの動作画面上において表示された実際のデータ内容を確認して範囲指定をおこなった後、そのデータをリレーショナル・データベース・アプリケーション205上に読み込むことができる機能である。CSV（Comma Separated Value）形式のファイルからのデータ読み込みでも、画面上で実際のデータを確認しながら読み込む項目名を指定することが可能である。

【0107】（3）表オープン履歴の記憶機能

以前読み込んだ表や画面帳票をデータベースごとに記憶する機能であり、これにより、リレーショナル・データベース・アプリケーション205を起動すれば、すぐに目的の表や帳票を開くことができる。

【0108】（4）絞込条件設定機能

クエリを設計することなく、表示された一覧表に対して条件を順次設定しながら、リレーショナル・データベース・アプリケーション205での絞り込みをおこなうことができる機能である。実際のデータを見ながら操作できるので、求める切り口を容易に見つけ出すことも可能である。さらに、ダイアログボックス設定も、使用頻度の高い条件を選択するだけで簡単におこなうことができる。

【0109】（5）書式登録機能

書式を表そのものに標準書式として設定できるほか、一覧表示するごとに設定したり、書式名を付けて登録しておくことができる機能である。登録した書式名はタブに表示され、それをマウスクリックで切り替えながら閲覧できるので、一つの表をさまざまな切り口で見えていくことが可能である。さらに、この機能をクライアント/サーバ環境で利用すると、データのみでなく書式も共有化され、グループでのデータ分析などに役立てることができる。

【0110】（6）日本語特有の一覧項目書式機能

表一覧の表示書式に日本語特有の表記を使うことができる機能である。「億兆万」単位表示をはじめ、「時分秒」「第一四半期」、そして△（マイナス記号）などにも対応する。また、項目の並べ替えだけでなく、項目ラベルの階層表示もできる等、視認性の高い書式作成が可能である。さらに、数値の3桁区切りや、「¥」、

「%」などの単位表示をアイコン1つで設定できるほか、項目・行表示幅の一括変更や最適化など、表計算感覚で表示形式を変更できる。

【0111】（5. 日本語変換アプリケーション206）ワードプロセッサ・アプリケーション201、図形プロセッサ・アプリケーション202等のアプリケーションに搭載された日本語変換アプリケーション206は、日本語変換機能を有して、仮名漢字変換をおこなう。

10 【0112】仮名漢字変換とは、周知のとおり、ユーザーが入力した文章を文節単位に分解して、仮名漢字変換用の辞書を検索し、正しいと思われる候補を提示する仕組みである。これは、「読み」をキーにして、変換辞書というデータベースを検索する、一種のデータベースシステムとして考えることができる。

【0113】このように日本語変換アプリケーション206は、一種のデータベースシステムとして位置付けることができるため、検索対象となるデータは仮名漢字変換用の辞書だけである必要はない。いわゆる国語辞書や類義語辞書、百科事典、あるいはアドレス帳のデータやスケジュール、さらにはインターネットの情報や企業内の基幹データベースのデータまで、対象に制限はない。

【0114】（6. インターネット・メーカー・アプリケーション207）インターネット・メーカー・アプリケーション207は、マルチユーザー対応機能、メール一覧機能、メール送信機能、メールサーバ接続機能、フォルダ自動仕分け機能、アドレス帳機能、バックアップ機能およびPOPログイン機能等の電子メールの送受信を主目的としたソフトウェアである。

30 【0115】（7. ネットワーク対応スケジューラー・アプリケーション208）ネットワークに接続して、予定の管理だけでなくメモや日記、備忘録としての用途にも利用することができるスケジューラーである。予定やTODO（作業項目管理表）のデータは、簡単に電子メールで送付することができ、メールソフトで受信するとそのデータはスケジューラーに自動登録される。

40 【0116】（8. インターネット・ブラウザ・アプリケーション209）インターネット・ブラウザ・アプリケーション209は、インターネットのWebサイト、FTP（File Transfer Protocol）サイトなどにアクセスして、主にHTML（Hypertext Markup Language）ページやデータファイルの閲覧を可能とする。

【0117】また、NetNewsサーバにアクセスして、ニュースの購読・投稿が可能である。また、アクセスが必要な時に自動的にダイヤルアップ接続をおこなう機能やキャッシュを最大限に活用する省アクセスモードを備える場合もある。

50 【0118】（9. Webサイト巡回アプリケーション210）Webサイト巡回アプリケーション210は、

インターネット／イントラネット上のWebサイトを自動的に巡回して、あらかじめ設定されたアドレスのWebページをダウンロードするソフトウェアである。ダウンロードされたWebページは、情報処理装置内のキャッシュやファイルに保存され、オフライン状態でその内容を確認することができる。

【0119】(10. ダイアルアップ・アプリケーション211) ダイアルアップ・アプリケーション211は、ネットワークとの接続状態を監視し、設定された時刻に自動接続／切断するタイマー機能、データの送受信が所定時間おこなわれない場合に自動切断する機能、ネットワーク利用の課金情報を管理する機能等を有するソフトウェアである。

【0120】特に、上記したインターネット・メーラー・アプリケーション207、ネットワーク対応スケジューラー・アプリケーション208、インターネット・ブラウザ・アプリケーション209、Webサイト巡回アプリケーション210が、ダイアルアップ接続を介したオンライン処理をおこなう場合、それらの起動の前段において、このダイアルアップ・アプリケーション211が起動される。

【0121】(その他ツール・アプリケーション) ファイル検索ツール・アプリケーション212、マクロ編集ツール・アプリケーション213、数式作成ツール・アプリケーション214、フォント・エフェクト・ツール・アプリケーション215、グラフ作成ツール・アプリケーション216、連続印刷ツール・アプリケーション217、文章表現辞典アプリケーション218等のアプリケーションは、上述した各種アプリケーションと連携して使用されることが多く、それらの名が示すごとく、ファイル検索機能、マクロ編集、数式作成機能、フォント・エフェクト機能、グラフ作成機能、連続印刷機能、文章表現辞典機能を追加または強化する。ここでは、これらの詳細は省略する。

【0122】以上に説明した各種アプリケーションは、「ワードプロセッサ・アプリケーション透過編集機能」の説明においても述べたように、OLEインプレース技術によって、その動作を、他のアプリケーションの編集対象である文書や図面上に埋め込んで実行させることができる場合が多い。

【0123】特に、ワードプロセッサ・アプリケーション上で作成される文書においては、その表現力を高めるために、ワードプロセッサ・アプリケーションに元来備わっている図形描画機能や表作成機能以上の機能が要求されることが多く、一つの文書上に、上記した図形プロセッサ・アプリケーションや表計算アプリケーション等で作成された結果をオブジェクトとして配置することで、この要望に応じている。

【0124】よって、現状においては、文書作成処理をおこなう際、情報処理装置にワードプロセッサ・アプリ

ケーションのみを備えることですべての要求に応えることはできず、上記した種々のアプリケーションとの連携動作によって、より高度に表現された文書を得ることができる。

【0125】このように、ワードプロセッサ・アプリケーション上においては、文書に、テキスト情報のみならず、必要に応じて、図、表、数式等を配置して完成される。また、従来の紙媒体による文書作成では実現し得なかったコントロール・ボタンの配置を可能にしている。コントロール・ボタンとは、文書上にアイコン状のボタンを作成し、このボタンをクリックすることで、そのボタンに割り当てられた動作、たとえば音声出力やドロップダウン・メニュー表示等を実行させることを可能にした特別なオブジェクトである。以下において、単に「文書」と表現する場合は、このようなさまざまな表現形態の文書を含むものとする。

【0126】つぎに、本実施の形態による情報処理装置の機能的構成について説明する。図3は、本実施の形態による情報処理装置の構成を機能的に説明するブロック図である。図3のブロック図において、情報処理装置は、表示部301と、フォルダ作成部302と、フォルダ指定部303と、表示制御部304と、一覧表示ファイル作成部305と、文書ファイル選択部306と、を含む構成である。

【0127】表示部301は、CRTディスプレイや液晶ディスプレイ等の表示画面を有する表示装置であり、上記したディスプレイ108に相当するものである。また、フォルダ作成部302は、文書作成機能を有するアプリケーション(ワードプロセッサ・アプリケーション)によって作成された複数の文書ファイルを格納するフォルダを、記憶装置(上記したHD105、FD107に相当)またはネットワーク上の所定領域に階層的に作成する。

【0128】また、フォルダ指定部303は、フォルダ作成部302によって作成された複数のフォルダのうちの一つを指定する。また、表示制御部304は、表示部301を制御して、フォルダ指定部303によって指定されたフォルダ内の複数の文書ファイルの完全な内容またはテキスト情報のみの全部または一部を、縦並び形式や格子状に一覧表示する。

【0129】また、一覧表示ファイル作成部305は、フォルダ指定部303によって指定されたフォルダ内の複数の文書ファイルの内容を含んだ一覧表示ファイルを作成する。またここで、表示制御部304は、一覧表示ファイル作成部305によって作成された一覧表示ファイルを読み込むことにより、複数の文書ファイルを一覧表示する。

【0130】また、文書ファイル選択部306は、表示制御部304によって一覧表示された文書ファイルのうちの一つを選択する。またここで、表示制御部304

は、文書ファイル選択部306によって選択された文書ファイルの内容を、文書ファイルが一覧表示される領域に全面表示し、または上記した文書作成機能を有するアプリケーションと異なるアプリケーション上に表示する。

【0131】さらに、表示制御部304は、各文書ファイルの表示領域ごとに、文書ファイルの全内容をスクロール表示する第1のスクロール手段（スクロールバー）を付して表示するとともに、文書ファイルが一覧表示される領域に、フォルダ指定部303によって指定された

10 フォルダ内のすべての文書ファイルをスクロール表示する第2のスクロール手段（スクロールバー）を付して表示する。

【0132】なお、フォルダ作成部302、フォルダ指定部303、表示制御部304、一覧表示ファイル作成部305、文書ファイル選択部306は、それぞれ、ROM102、RAM103またはハードディスク105、フロッピーディスク107、CDROM115等の記録媒体に記録されたプログラムに記載された命令にしたがってCPU101等が命令処理を実行することにより、各部の機能を実現するものである。

【0133】つぎに、本実施の形態による情報処理装置の動作について説明する。図4は、本実施の形態による情報処理装置の動作および操作の一連の流れを示すフローチャートである。

【0134】まず、本実施の形態による情報処理装置の特徴となる、複数の文書ファイルの内容を一覧表示する機能（以下、マルチドキュメント・ビューア機能と称する）を実現させるマルチビューア・ウインドウを表示させる。このマルチビューア・ウインドウは、単独に動作するアプリケーションとして、所定のコマンドの指定による起動の結果、表示されるものでもよいし、上述したように、ワードプロセッサ・アプリケーションに備える機能の一部として、所定のコマンドを実行させることで表示されるものでもよい。

【0135】そして、このマルチビューア・ウインドウ上において、一覧表示させようとする複数の文書ファイルが格納されたフォルダの指定をおこなう（ステップS401）。図5は、本実施の形態による情報処理装置の表示部によって表示される表示画面の一例であり、特に上記したマルチビューア・ウインドウを示している。

【0136】図5に示すように、マルチビューア・ウインドウ501には、後述する各種の処理を実行するためのアイコンが配置されたツールバー502を設けており、特に、上記したステップS401におけるフォルダ指定は、ツールバー502上のフォルダ指定ボックス503によっておこなう。

【0137】具体的には、まず、マウス等によって、リスト表示ボタン504をクリックすることで、フォルダ表示リストボックス505を表示させる。図5において

は、最上層のフォルダとして、「My home」506、「スケジュール」507が表示されている。これらのフォルダの下にさらに階層的にフォルダが存在する場合は、そのフォルダをダブルクリックすることにより、下層のフォルダを表示させることができる。

【0138】図5においては、「My home」506の下層に、3つのフォルダ「営業一課」508、「報告書」509、「Temporary」510が存在する例を示している。なお、これらフォルダは、本実施の形態による情報処理装置において、プラットフォームとして動作しているオペレーティングシステムのフォルダ作成コマンドによってあらかじめ作成されたものである。

【0139】また、このフォルダ作成コマンドは、文書作成をおこなうワードプロセッサ・アプリケーションを経由して実行される場合もあり、このようにして作成されたフォルダ内に、作成した文書ファイルが格納されて整理される。

【0140】つぎに、図5に示したようなフォルダ指定操作によって指定されたフォルダ内にコレクションファイルが存在するか否かが判定される（ステップS402）。ここで、コレクションファイルとは、本実施の形態による情報処理装置の特徴の一つであり、後述するような文書ファイルの内容を一覧表示するために最適化された一覧表示ファイルである。このコレクションファイルは、また、このマルチビューア・ウインドウ501上のコマンドにより作成することができ、これについては後述する。

【0141】指定されたフォルダにコレクションファイルが存在する場合（ステップS402肯定）、そのコレクションファイルに含まれる複数の文書ファイルの内容を、分割された表示領域の各々に表示するとともに、これら表示領域を縦並び形式に配置する（ステップS403）。

【0142】図6は、本実施の形態による情報処理装置の表示部によって表示される表示画面の一例であり、特に上記したマルチビューア・ウインドウにおいて文書ファイルの縦並び表示を示している。なお、図6において、図5と共通する部分は、同一符号を付して、その説明を省略する。

40 【0143】図6に示すマルチビューア・ウインドウ601においては、3つの異なる文書ファイルの内容が、それぞれ分割表示領域602、603および604に表示されている。また、各分割表示領域は、それぞれ個別スクロールバー622、623および624を付しており、これらスクロールバーによって、各分割表示領域に表示する文書ファイルの内容をスクロール表示することができる。

【0144】さらに、マルチビューア・ウインドウ601の文書ファイル表示領域の全体に対して全体スクロールバー620が付されており、このスクロールバー62

0によって、文書ファイル表示領域に、上記した分割表示領域602、603および604につづく、分割表示領域をスクロール表示させることができる。すなわち、上記した3つの異なる文書ファイル以外にも、コレクションファイルに含まれる文書ファイルの数だけ、その内容を閲覧することができる。

【0145】ここで、マルチビュー・ウインドウ601のツールバー502に配置される各アイコンについて簡単に説明するが、各アイコンに割り当てられた動作については後述する。まず、「更新」アイコン605は、新たにコレクションファイルを作成するための指示を与えるものである。

【0146】「ターゲットファイル変更」アイコン606および607は、マルチビュー・ウインドウ601の文書ファイル表示領域において、選択状態となっている分割表示領域の文書ファイル（ターゲットファイル）を切り替えるためのものである。なお、ターゲットファイルの切り替えは、上記した「ターゲットファイル変更」アイコン606および607によらずとも、分割表示領域の一部分をクリックすることでも可能である。

【0147】「全体表示」アイコン608は、文書ファイル表示領域に全体に一つの分割表示領域を確保し、これに文書ファイルの内容を表示するためのものである。上記した「ターゲットファイル変更」アイコン606および607は、この全体表示の際に有効利用される。

【0148】「リスト表示」アイコン609は、図6に示しているとおりの複数の分割表示領域を縦並び形式（リスト状）に表示するためのものである。「格子表示」アイコン610は、複数の分割表示領域を格子状に表示するためのものである。

【0149】「テキスト全体表示」アイコン611、「テキストリスト表示」612および「テキスト格子表示」アイコン613は、コレクションファイルから文書内容を抽出せずに、ワードプロセッサ保存形式の元文書ファイルの各々からテキスト情報を抽出して各分割表示領域に表示する（以下、テキストモードと称する）ためのものであり、その表示形態が、「全体表示」アイコン608、「リスト表示」アイコン609および「格子表示」アイコン610と同様となる。

【0150】そして、「ビュー起動」アイコン614は、別のアプリケーションであるビューを起動し、そのビュー上に、ターゲットファイルの内容を表示するためのものである。

【0151】図6に示した表示状態において、上記したアイコンの選択による表示切り替えがおこなわれない場合は（ステップS405否定）、閲覧処理の待機状態となる（ステップS406）。図7は、本実施の形態による情報処理装置において、閲覧処理を示すフローチャートである。

【0152】図7に示すフローチャートにおいて、ま

ず、全体スクロールバー620が操作（移動）されると（ステップS701肯定）、文書表示領域に一覧表示させる分割表示領域をスクロールし、スクロール方向に応じて、他の文書ファイルの内容を表示した分割表示領域を表示する（ステップS702）。

【0153】また、個別スクロールバー622、623および624のいずれかが操作（移動）されると（ステップS703肯定）、操作されたスクロールバーが付された分割表示領域内部に表示される文書ファイルの内容を、スクロール方向に応じて、スクロール表示する（ステップS704）。

【0154】また、「ターゲットファイル変更」アイコン606および607が押下げられた（クリックされた）場合（ステップS705肯定）、ターゲットファイルを切り替え、その変更表示をおこなう（ステップS706）。図6においては、分割表示領域602の文書ファイルがターゲットファイルとして選択されている状態を示しているが、この状態において、「ターゲットファイル変更」アイコン607がクリックされると、分割表示領域602の下に配置する分割表示領域603の文書ファイルがターゲットファイルとなる。

【0155】図4のフローチャートにおいて、コレクションファイルの更新指示が発生すると、すなわち「更新」アイコン605がクリックされると（ステップS407肯定）、コレクションファイル更新処理に移行する（ステップS408）。図8は、本実施の形態による情報処理装置において、コレクションファイル更新処理を示すフローチャートである。

【0156】図8に示すフローチャートにおいては、まず、上記した指定フォルダ内にコレクションファイルが存在するか否かを判定する（ステップS801）。これは、コレクションファイルが作成されていない状態において、上記したテキストモードによる一覧表示がおこなわれている場合を考慮したものである。

【0157】よって、指定フォルダ内にコレクションファイルが存在しない場合は、所定のファイル名のコレクションファイルが新規作成される（ステップS802）。また、この際、コレクションファイルの新規作成の許可を促すメッセージ画面を表示させるようにしてもよい。

【0158】一方、上記した指定フォルダ内にすでにコレクションファイルが存在する場合は、コレクションファイルの更新の許可を促すメッセージ画面を表示することができる。図9は、本実施の形態による情報処理装置の表示部によって表示される表示画面の一例であり、特に上記したコレクションファイルの更新のメッセージ画面を示している。

【0159】図9に示すメッセージ画面901において、チェックボックス904は、指定フォルダの下層に位置するフォルダ（サブフォルダ）に格納された文書フ

10

20

30

40

50

ファイルをコレクションファイルに含めるか否かのチェックをおこなうためのものである。このメッセージ画面901上において、「はい」ボタン902をクリックすることで、以降のステップS804につづくコレクションファイル更新処理がおこなわれる。また、「いいえ」ボタン903をクリックすると、図8に示すフローチャートの処理を強制終了（リターン）する。なお、上記したコレクションファイルの新規作成の許可を促すメッセージ画面もまた、図9に示したものと同様である。

【0160】ステップS804においては、上記したサブフォルダのチェックボックス904がチェックされているか否かが判定される。サブフォルダのチェックボックス904がチェックされている場合は、指定フォルダのサブフォルダに格納された文書ファイルをコレクションファイルの対象とし、チェックボックス904がチェックされていない場合は、指定フォルダに格納された文書ファイルのみをコレクションファイルの対象として、これら対象となる文書ファイルの抽出をおこなう（ステップS805）。

【0161】つづいて、抽出した文書ファイルの各々の内容をイメージデータに変換して連結し、一つのコレクションファイルとして出力する（ステップS806）。すなわち、これにより、コレクションファイルの更新が達成される。

【0162】このようにコレクションファイルの内容が変更されたため、新たにコレクションファイルの内容に基づいて、図6に示したように、文書ファイルの内容の一覧表示をおこなう（ステップS807）。

【0163】つぎに、図6のマルチビュー・ウインドウ601の「開く」ボタン630がクリックされることにより（図4のステップS409肯定）、ターゲットファイルが、そのターゲットファイルの元文書の作成に用いられたワードプロセッサ・アプリケーション（関連付けワープロ）の起動処理が実行される（ステップS411）。

【0164】図10は、本実施の形態による情報処理装置において、関連付けワープロ起動処理を示すフローチャートである。図10に示すフローチャートにおいては、まず、ターゲットファイルに関連付けられたワードプロセッサ・アプリケーションが起動される（ステップS1001）。起動対象となるワードプロセッサ・アプリケーションは、たとえば、コレクションファイルに含まれた文書ファイル情報から、ターゲットファイルの拡張子から判断される。

【0165】このワードプロセッサ・アプリケーションの起動とともに、アクティブウインドウが、マルチビュー・ウインドウ601からワードプロセッサ・アプリケーションのウインドウへと移行する（ステップS1002）。このアクティブウインドウの移行とともに、ワードプロセッサ・アプリケーションにターゲットファイ

ルのファイル名が引き渡され（ステップS1003）、このワードプロセッサ・アプリケーション上において、ターゲットファイルの編集処理が可能となる（ステップS1004）。

【0166】図11は、本実施の形態による情報処理装置において、ワードプロセッサ・アプリケーションが起動された状態を説明するための説明図である。図11に示すように、上記した関連付けワープロ起動処理により、マルチビュー・ウインドウ601上に重なって、ワードプロセッサ・アプリケーションの動作ウインドウ1101が表示される。また、表示装置の表示画面全体に、このワードプロセッサ・アプリケーションの動作ウインドウ1101が表示され、アクティブ状態に移行する場合もある。

【0167】一方、図4に示すフローチャートにおいて、指定フォルダにコレクションファイルが存在しない場合（ステップS402否定）、コレクションファイルの作成許可を示すメッセージ画面が表示され、ユーザーによる指示が仰がれる。図12は、本実施の形態による情報処理装置の表示部によって表示される表示画面の一例であり、特に上記したコレクションファイルの作成許可を示すメッセージ画面を示している。

【0168】図12に示すメッセージ画面1201において、「はい」ボタン1202をクリックすると、上記したステップS408のコレクション更新処理と同様な処理により、コレクションファイルが作成される。また、「いいえ」ボタン1203をクリックすることにより、図5に示したフォルダ指定画面に移行する。

【0169】さらに、図12において「テキスト表示」ボタン1204をクリックすることにより、指定フォルダ内の各文書ファイルからテキスト情報を抽出して、コレクションファイルに相当するテキストモード用のテンポラリファイルが作成される。そして、このテンポラリファイルの内容に基づいて、縦並びの表示形式（リスト表示）で、マルチビュー・ウインドウの文書表示領域に一覧表示される（ステップS404）。

【0170】図13は、本実施の形態による情報処理装置の表示部によって表示される表示画面の一例であり、特に上記したテキストモードによるリスト表示を示している。図13に示すマルチビュー・ウインドウ1301において、図6に示したマルチビュー・ウインドウ601と異なる点は、分割表示領域1302、1303および1304に表示される内容が、書式や図等が挿入された状態の本来の文書内容ではなく、文書ファイルのテキスト部分のみにより簡易表示されていることである。

【0171】その他の全体スクロールバー1320、個別スクロールバー1322、1323および1324は、それぞれ図6に示した全体スクロールバー620、個別スクロールバー622、623および624と同様

である。

【0172】つぎに、表示形式の切り替えについて説明する。「全体表示」アイコン608、「リスト表示」アイコン609、「格子表示」アイコン610、「テキスト全体表示」アイコン611、「テキストリスト表示」612、「テキスト格子表示」アイコン613または「ビューア起動」アイコン614をクリックすることによって、文書ファイルの表示形式の切り替え指示が発生すると（図4のステップS405肯定）、まず、その切り替え指示が、テキストモードの表示を示すものか否かが判定される（ステップS412）。

【0173】切り替え指示がテキストモードの表示を示すものでなく、かつ「ビューア起動」アイコン614のクリックによるものでもない場合（ステップS414否定）、すなわち「全体表示」アイコン608、「リスト表示」アイコン609、「格子表示」アイコン610のいずれかのクリックによるものである場合、そのクリックにより選択された表示形式での一覧表示処理が実行される（ステップS416）。

【0174】また、切り替え指示がテキストモードの表示を示すものである場合、すなわち「テキスト全体表示」アイコン611、「テキストリスト表示」612、「テキスト格子表示」アイコン613のいずれかのクリックによるものである場合、上記したステップS404における処理と同様なテキスト抽出処理がおこなわれ、テンポラリファイルが作成される（ステップS413）。

【0175】ステップS413の処理後は、ステップS416の一覧表示処理に移行する。なお、ステップS404により、すでにテンポラリファイルが作成されている場合は、ステップS413の処理はおこなわれない。

【0176】図14は、本実施の形態による情報処理装置において、一覧表示処理を示すフローチャートである。図14に示すフローチャートにおいて、上記した表示形式の切り替え指示が、「全体表示」アイコン608または「テキスト全体表示」アイコン611のクリックにより発生した場合（ステップS1401肯定）、ターゲットファイルをマルチビューア・ウインドウの文書表示領域の全体に亘って表示する（ステップS1402）。

【0177】図15は、本実施の形態による情報処理装置の表示部によって表示される表示画面の一例であり、特に上記した全体表示を示している。この全体表示では、「ターゲットファイル変更」アイコン606および607のクリックにより、順次表示させる文書ファイルの内容を切り替えることができる。

【0178】また、上記した表示形式の切り替え指示が、「リスト表示」アイコン609または「テキストリスト表示」アイコン612のクリックにより発生した場合（ステップS1403肯定）、図6に示したように、

各文書ファイルの内容を分割表示領域に表示しつつ、これら分割表示領域を縦並びに配置して表示する（ステップS1404）。

【0179】また、上記した表示形式の切り替え指示が、「格子表示」アイコン610または「テキスト格子表示」アイコン613のクリックにより発生した場合（ステップS1403否定）、各文書ファイルの内容を分割表示領域に表示しつつ、これら分割表示領域を格子状に配置して表示する（ステップS1405）。

【0180】図16は、本実施の形態による情報処理装置の表示部によって表示される表示画面の一例であり、特に上記した格子表示を示している。なお、図16において、図6と共通する部分には同一符号を付して、その説明を省略する。図16に示すマルチビューア・ウインドウ1601においては、4つの分割表示領域1602、1603、1604および1605が表示され、各分割表示領域内に文書ファイルの内容を表示している。

【0181】また、各分割表示領域には、図6に示したリスト表示と同様に、個別スクロールバーが付されている。特に、この格子表示では、一つの分割表示領域による表示範囲が小さくなるため、縦スクロール用と横スクロール用の2種類の個別スクロールバーが付されている。なお、この2種類のスクロールバーは、他の表示形式においても必要に応じて自動的に付加されるものである。

【0182】図16においては、縦スクロール用の個別スクロールバーとして、スクロールバー1622、1623、1624および1625が表示され、横スクロール用の個別スクロールバーとして、スクロールバー1632、1633、1634および1635が表示されている。また、全体スクロールバー1620は、図6に示した全体スクロールバー620と同機能を有する。

【0183】一方、図4に示すフローチャートにおいて、切り替え指示がテキストモードの表示を示すものでなく、かつ「ビューア起動」アイコン614のクリックによるものでもある場合（ステップS414肯定）、ビューア起動処理が実行される（ステップS415）。

【0184】図17は、本実施の形態による情報処理装置において、ビューア起動処理を示すフローチャートである。図17に示すフローチャートにおいては、まず、ターゲットファイルに関連付けられたビューアが起動される（ステップS1701）。起動対象となるビューアは、たとえば、マルチビューア・ウインドウ上における設定コマンド等によってあらかじめ設定しておく。

【0185】このビューアの起動とともに、アクティブウインドウが、マルチビューア・ウインドウからビューアのウインドウへと移行する（ステップS1702）。このアクティブウインドウの移行とともに、ビューアにターゲットファイルのファイル名が引き渡され（ステップS1703）、このビューア上において、ターゲット

10

20

30

40

50

ファイルの開覧処理が可能となる（ステップS1704）。

【0186】図18は、本実施の形態による情報処理装置において、ビューアが起動された状態を説明するための説明図である。図18に示すように、上記した関連付けビューア起動処理により、マルチビューア・ウィンドウ601上に重なって、ビューアの動作ウィンドウ1801が表示される。また、表示装置の表示画面全体に、このビューアの動作ウィンドウ1801が表示され、アクティブ状態に移行する場合もある。

【0187】以上説明したように、本実施の形態によれば、指定されたフォルダ内に格納された複数の文書ファイルの内容の全部または一部を、簡易にかつ効率よく複数の文書ファイルをその各内容が確認できる程度に一覧表示することができるので、複数の文書ファイルから、目的とする文書ファイルを迅速に見つけ出すことが可能となり、文書ファイルの再利用やファイル管理をおこなう際の負担を軽減することができる。

【0188】また、本実施の形態によれば、指定されたフォルダ内に格納された複数の文書ファイルの内容を含んだ一覧表示ファイル（コレクションファイル）を作成し、この一覧表示ファイルを読み込むことで、複数の文書ファイルを一覧表示することができるので、複数の文書をその都度読み込む処理が不要となり、迅速な一覧表示が可能となる。

【0189】また、本実施の形態によれば、指定されたフォルダ内に格納された複数の文書ファイルのテキスト情報のみを抽出して一覧表示することができ、文書内容を確認するのに最低限必要な情報を提示できる。

【0190】また、本実施の形態によれば、複数の文書ファイルの各内容を、縦並び形式や格子状に一覧表示したり、全面表示することができるので、表示装置の表示画面のサイズに応じた最適な文書確認作業をおこなうことができる。

【0191】また、本実施の形態によれば、一覧表示された文書ファイルのうちの一つの文書内容を、その文書の作成に用いた文書作成機能を有するアプリケーション（ワードプロセッサ・アプリケーション）上に表示することができるので、文書内容の確認から編集作業への移行を迅速におこなうことができる。

【0192】また、本実施の形態によれば、各文書ファイルごとにその文書ファイルの内容をスクロール表示することができるとともに、指定されたフォルダ内のすべての文書ファイルを文書ファイルの表示領域単位にスクロール表示することができるので、表示装置の表示画面のサイズに制限されない一覧表示をおこなうことができる。

【0193】なお、本実施の形態で説明した情報処理方法は、あらかじめ用意されたプログラムをパーソナルコンピュータやワークステーション等のコンピュータで実

行することにより実現される。このプログラムは、ハードディスク、フロッピーディスク、CD-ROM、MO、DVD等のコンピュータで読み取り可能な記録媒体に記録され、コンピュータによって記録媒体から読み出されることによって実行される。またこのプログラムは、上記記録媒体を介して、インターネット等のネットワークを介して配布することができる。

【0194】

【発明の効果】以上説明したように、請求項1の発明によれば、文書作成機能を有するアプリケーションを実行させる情報処理装置において、表示手段が、表示画面を有し、フォルダ作成手段が、前記アプリケーションによって作成された複数の文書ファイルを格納するフォルダを、記憶装置またはネットワーク上の所定領域に階層的に作成し、フォルダ指定手段が、前記フォルダ作成手段によって作成された複数のフォルダのうちの一つを指定し、表示制御手段が、前記表示手段を制御して、前記フォルダ指定手段によって指定されたフォルダ内の複数の文書ファイルの内容の全部または一部を一覧表示するので、複数の文書ファイルから、目的とする文書ファイルを迅速に見つけ出すことが可能となり、文書ファイルの再利用やファイル管理をおこなう際の負担を軽減することが可能な情報処理装置が得られるという効果を奏する。

【0195】また、請求項2の発明によれば、請求項1の発明において、さらに、一覧表示ファイル作成手段が、前記フォルダ指定手段によって指定されたフォルダ内の複数の文書ファイルの内容を含んだ一覧表示ファイルを作成し、前記表示制御手段が、前記一覧表示ファイルを読み込むことにより、前記複数の文書ファイルを一覧表示するので、複数の文書をその都度読み込む処理が不要となり、迅速な一覧表示が可能な情報処理装置が得られるという効果を奏する。

【0196】また、請求項3の発明によれば、請求項1の発明において、前記表示制御手段が、前記フォルダ指定手段によって指定されたフォルダ内の複数の文書ファイルのテキスト情報のみを抽出して一覧表示するので、指定されたフォルダ内に格納された複数の文書ファイルのテキスト情報のみを抽出して一覧表示することができ、文書内容を確認するのに最低限必要な情報を提示することが可能な情報処理装置が得られるという効果を奏する。

【0197】また、請求項4の発明によれば、請求項1、2または3の発明において、前記表示制御手段が、前記複数の文書ファイルの各内容を、縦並び形式に一覧表示するので、表示装置の表示画面のサイズに応じた最適な文書確認作業をおこなうことが可能な情報処理装置が得られるという効果を奏する。

【0198】また、請求項5の発明によれば、請求項1、2または3の発明において、前記表示制御手段が、

前記複数の文書ファイルの各内容を、格子状に一覧表示するので、表示装置の表示画面のサイズに応じた最適な文書確認作業をおこなうことが可能な情報処理装置が得られるという効果を奏する。

【0199】また、請求項6の発明によれば、請求項1～5のいずれか一つの発明において、さらに、文書ファイル選択手段が、前記表示制御手段によって一覧表示された文書ファイルのうちの一つを選択し、前記表示制御手段が、前記文書ファイル選択手段によって選択された文書ファイルの内容を、文書ファイルが一覧表示される領域に全面表示するので、表示装置の表示画面のサイズに応じた最適な文書確認作業をおこなうことが可能な情報処理装置が得られるという効果を奏する。

【0200】また、請求項7の発明によれば、さらに、文書ファイル選択手段が、前記表示制御手段によって一覧表示された文書ファイルのうちの一つを選択し、前記表示制御手段が、前記文書ファイル選択手段によって選択された文書ファイルを、前記アプリケーション上に表示させるので、文書内容の確認から編集作業への移行を迅速におこなうことが可能な情報処理装置が得られるという効果を奏する。

【0201】また、請求項8の発明によれば、前記表示制御手段が、各文書ファイルの表示領域ごとに、文書ファイルの全内容をスクロール表示する第1のスクロール手段を付して表示するとともに、文書ファイルが一覧表示される領域に、前記フォルダ指定手段によって指定されたフォルダ内のすべての文書ファイルをスクロール表示する第2のスクロール手段を付して表示するので、表示装置の表示画面のサイズに制限されない一覧表示をおこなうことが可能な情報処理装置が得られるという効果を奏する。

【0202】また、請求項9の発明によれば、文書作成機能を有するアプリケーションを実行させる情報処理方法において、フォルダ作成工程が、前記アプリケーションによって作成された複数の文書ファイルを格納するフォルダを、記憶装置またはネットワーク上の所定領域に階層的に作成し、フォルダ指定工程が、前記フォルダ作成手段によって作成された複数のフォルダのうちの一つを指定し、表示工程が、前記フォルダ指定工程によって指定されたフォルダ内の複数の文書ファイルの内容の全部または一部を一覧表示するので、複数の文書ファイルから、目的とする文書ファイルを迅速に見つけ出すことが可能となり、文書ファイルの再利用やファイル管理をおこなう際の負担を軽減することが可能な情報処理方法が得られるという効果を奏する。

【0203】また、請求項10の発明によれば、請求項9の発明において、さらに、一覧表示ファイル作成工程が、前記フォルダ指定工程によって指定されたフォルダ内の複数の文書ファイルの内容を含んだ一覧表示ファイルを作成し、前記表示工程が、前記一覧表示ファイルを

読み込むことにより、前記複数の文書ファイルを一覧表示するので、複数の文書をその都度読み込む処理が不要となり、迅速な一覧表示が可能な情報処理方法が得られるという効果を奏する。

【0204】また、請求項11の発明によれば、請求項9の発明において、前記表示工程が、前記フォルダ指定工程によって指定されたフォルダ内の複数の文書ファイルのテキスト情報のみを抽出して一覧表示するので、指定されたフォルダ内に格納された複数の文書ファイルのテキスト情報のみを抽出して一覧表示することができ、文書内容を確認するのに最低限必要な情報を提示することが可能な情報処理方法が得られるという効果を奏する。

【0205】また、請求項12の発明によれば、請求項9、10または11の発明において、前記表示工程が、前記複数の文書ファイルの各内容を、縦並び形式に一覧表示するので、表示装置の表示画面のサイズに応じた最適な文書確認作業をおこなうことが可能な情報処理方法が得られるという効果を奏する。

【0206】また、請求項13の発明によれば、請求項9、10または11の発明において、前記表示工程が、前記複数の文書ファイルの各内容を、格子状に一覧表示するので、表示装置の表示画面のサイズに応じた最適な文書確認作業をおこなうことが可能な情報処理方法が得られるという効果を奏する。

【0207】また、請求項14の発明によれば、請求項9～13のいずれか一つの発明において、さらに、文書ファイル選択工程が、前記表示工程によって一覧表示された文書ファイルのうちの一つを選択し、前記表示工程が、前記文書ファイル選択工程によって選択された文書ファイルの内容を、文書ファイルが一覧表示される領域に全面表示するので、表示装置の表示画面のサイズに応じた最適な文書確認作業をおこなうことが可能な情報処理方法が得られるという効果を奏する。

【0208】また、請求項15の発明によれば、請求項9～14のいずれか一つの発明において、さらに、文書ファイル選択工程が、前記表示工程によって一覧表示された文書ファイルのうちの一つを選択し、前記表示工程が、前記文書ファイル選択工程によって選択された文書ファイルを、前記アプリケーション上に表示させるので、文書内容の確認から編集作業への移行を迅速におこなうことが可能な情報処理方法が得られるという効果を奏する。

【0209】また、請求項16の発明によれば、請求項9～15のいずれか一つの発明において、前記表示工程が、各文書ファイルの内容をスクロール表示するとともに、前記フォルダ指定工程によって指定されたフォルダ内のすべての文書ファイルをスクロール表示するので、表示装置の表示画面のサイズに制限されない一覧表示をおこなうことが可能な情報処理方法が得られるという効

果を奏する。

【0210】また、請求項17の発明によれば、請求項9～16に記載された方法をコンピュータに実行させるプログラムを記録したことで、そのプログラムを機械読み取り可能となり、これによって、請求項9～16の動作をコンピュータによって実現することが可能な記録媒体が得られるという効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の本実施の形態による情報処理装置を含む情報処理装置のハードウェア構成を示すブロック図である。

【図2】本実施の形態による情報処理装置のアプリケーションの構成を示すブロック図である。

【図3】本実施の形態による情報処理装置の構成を機能的に示すブロック図である。

【図4】本実施の形態による情報処理装置の動作および操作の一連の流れを示すフローチャートである。

【図5】本実施の形態による情報処理装置の表示部によって表示される表示画面の一例である。

【図6】本実施の形態による情報処理装置の表示部によって表示される別の表示画面の一例である。

【図7】本実施の形態による情報処理装置において、閲覧処理を示すフローチャートである。

【図8】本実施の形態による情報処理装置において、コレクションファイル更新処理を示すフローチャートである。

【図9】本実施の形態による情報処理装置の表示部によって表示される別の表示画面の一例である。

【図10】本実施の形態による情報処理装置において、関連付けワープロ起動処理を示すフローチャートである。

【図11】本実施の形態による情報処理装置において、ワードプロセッサ・アプリケーションが起動された状態を説明するための説明図である。

【図12】本実施の形態による情報処理装置の表示部によって表示される別の表示画面の一例である。

【図13】本実施の形態による情報処理装置の表示部によって表示される別の表示画面の一例である。

【図14】本実施の形態による情報処理装置において、一覧表示処理を示すフローチャートである。

【図15】本実施の形態による情報処理装置の表示部によって表示される別の表示画面の一例である。

【図16】本実施の形態による情報処理装置の表示部に

よって表示される別の表示画面の一例である。

【図17】本実施の形態による情報処理装置において、ビューア起動処理を示すフローチャートである。

【図18】本実施の形態による情報処理装置において、ビューアが起動された状態を説明するための説明図である。

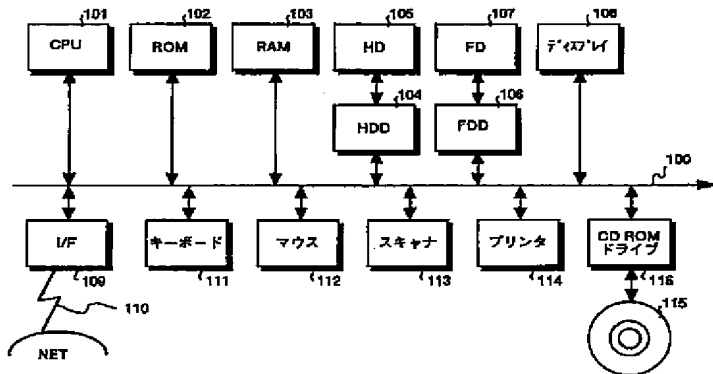
【図19】従来の情報処理装置において動作するビューア機能の一例を説明するための説明図である。

【図20】従来の情報処理装置において動作するビューア機能の他の例を説明するための説明図である。

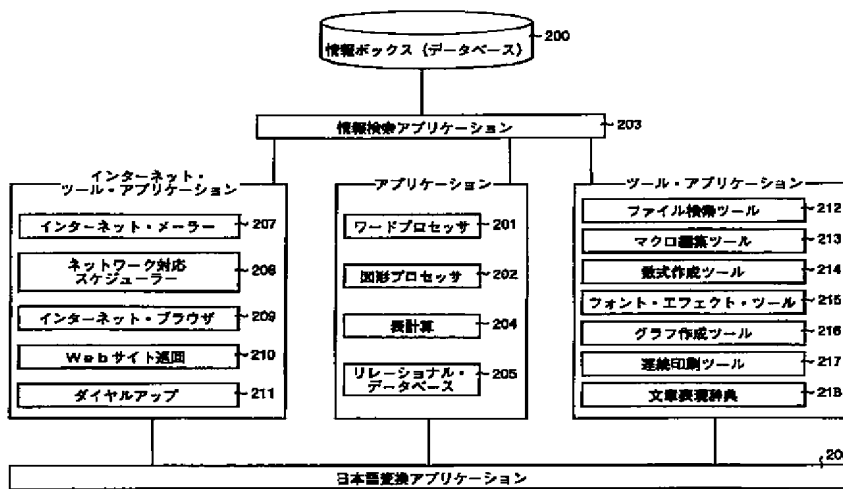
【符号の説明】

100	バス
101	CPU
102	ROM
103	RAM
104	HDD
105	HD
106	FDD
107	FD
108	ディスプレイ
109	I/F
110	通信回線
111	キーボード
112	マウス
113	スキャナ
114	プリンタ
115	CDROM
116	CDROMドライブ
200	データベース
201	ワードプロセッサ・アプリケーション
202	図形プロセッサ・アプリケーション
203	情報検索アプリケーション
204	表計算アプリケーション
205	リレーショナル・データベース・アプリケーション
206	日本語変換アプリケーション
301	表示部
302	フォルダ作成部
303	フォルダ指定部
304	表示制御部
305	一覧表示ファイル作成部
306	文書ファイル選択部

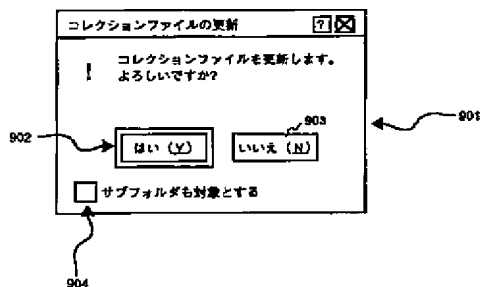
【図1】



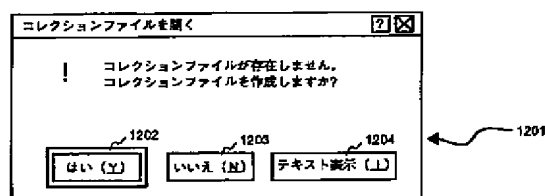
【図2】



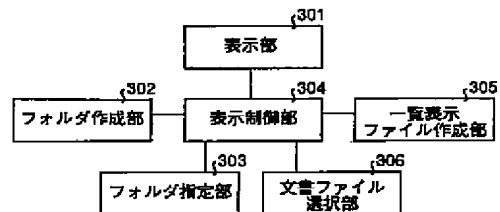
【図9】



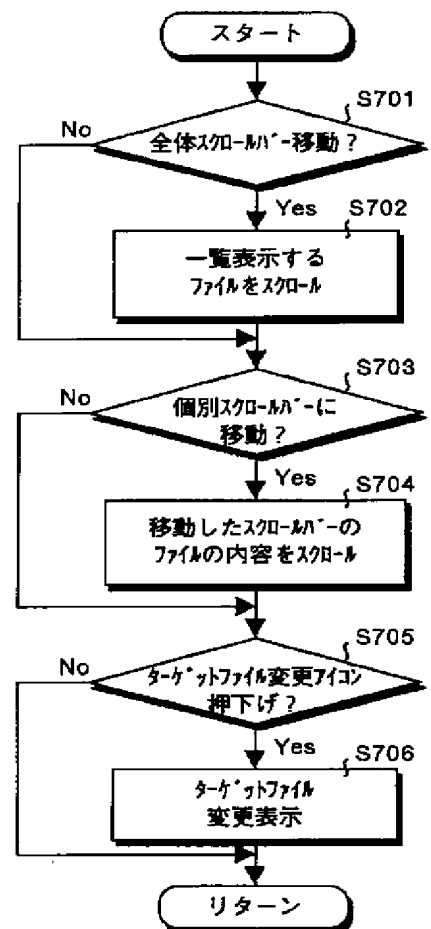
【図12】



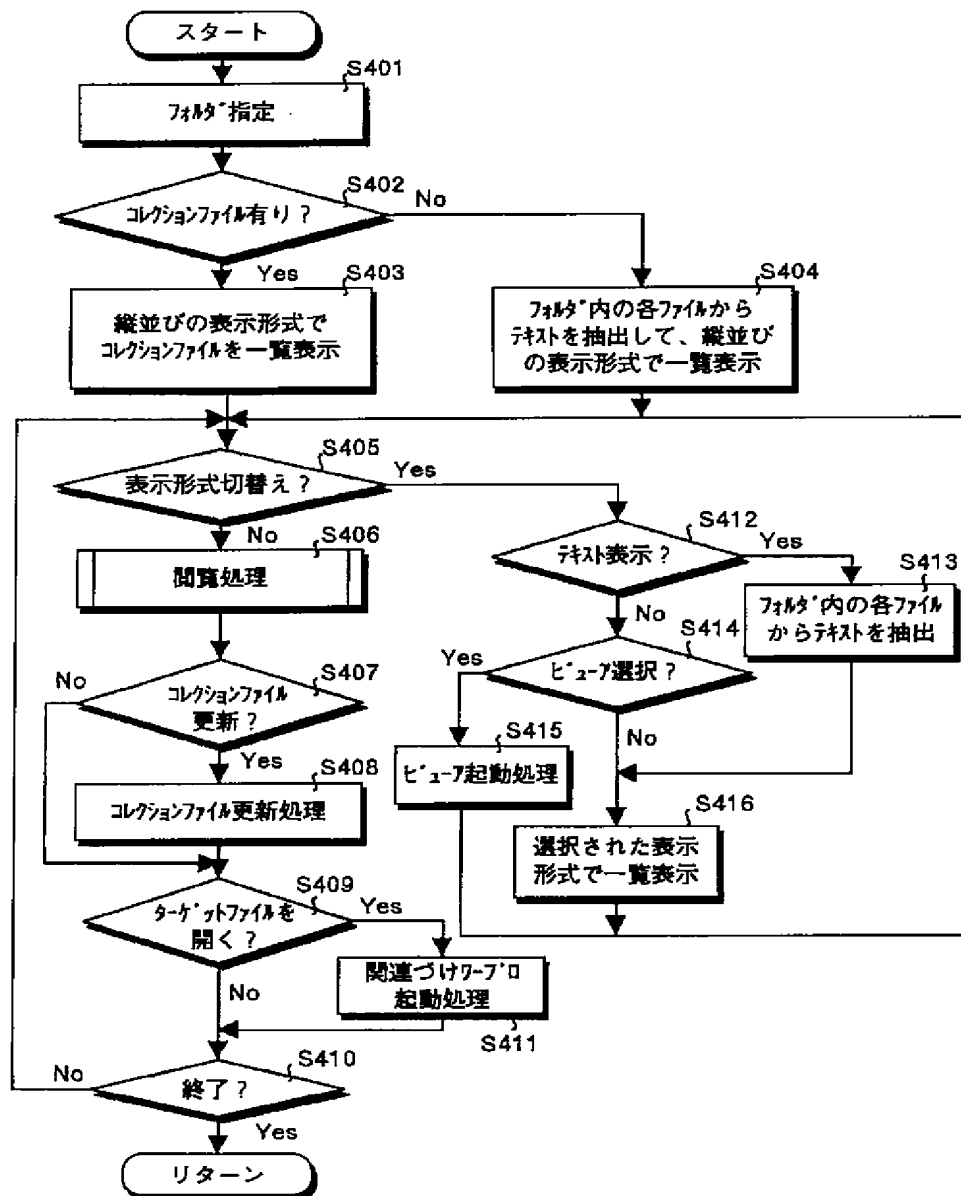
【図3】



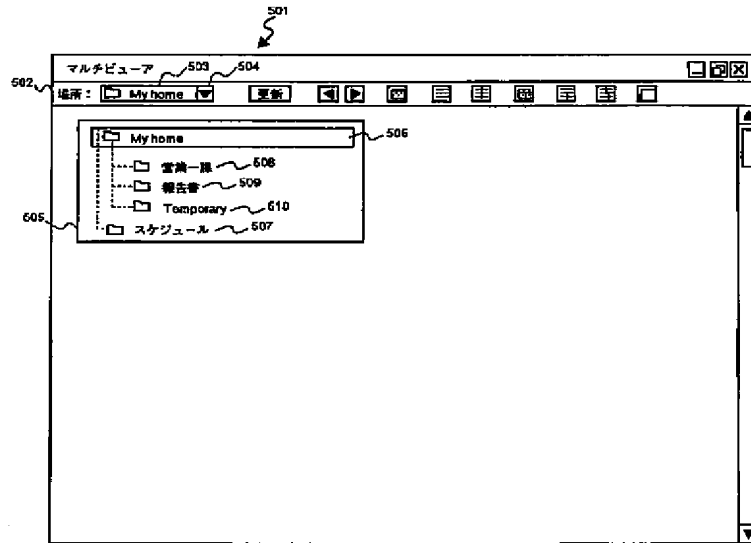
【図7】



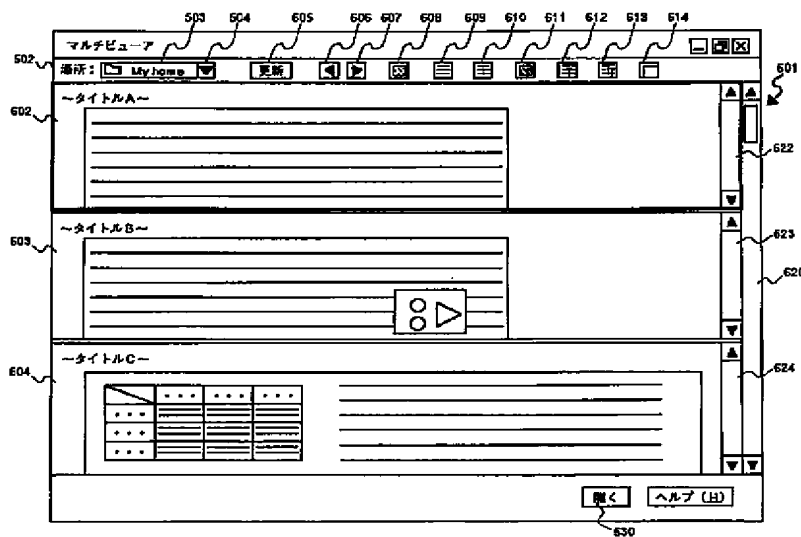
【図4】



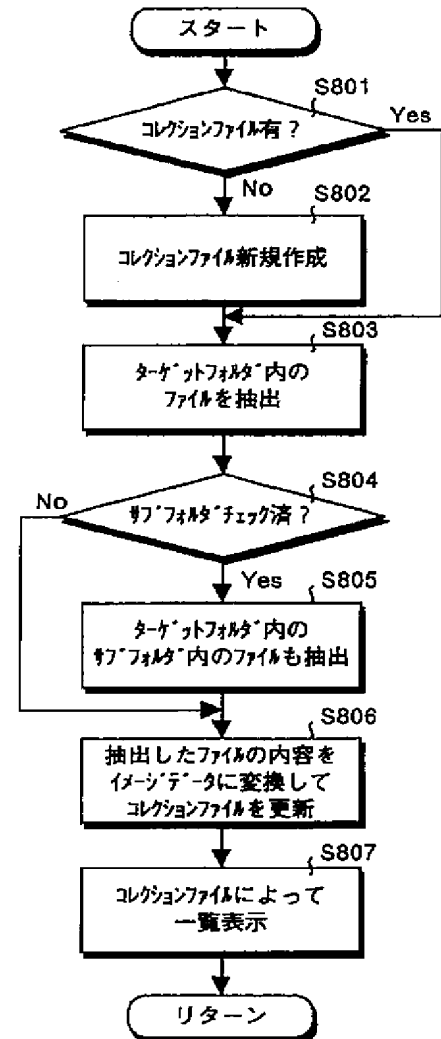
【図5】



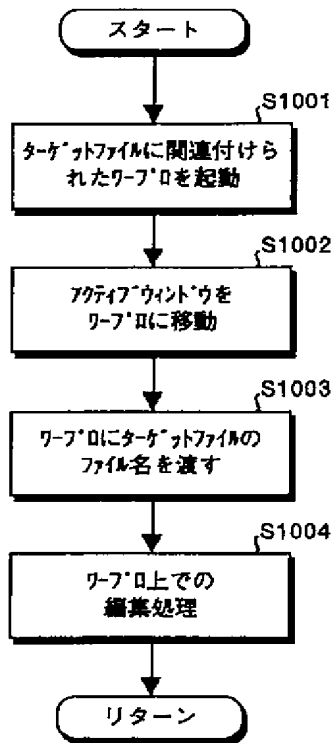
【図6】



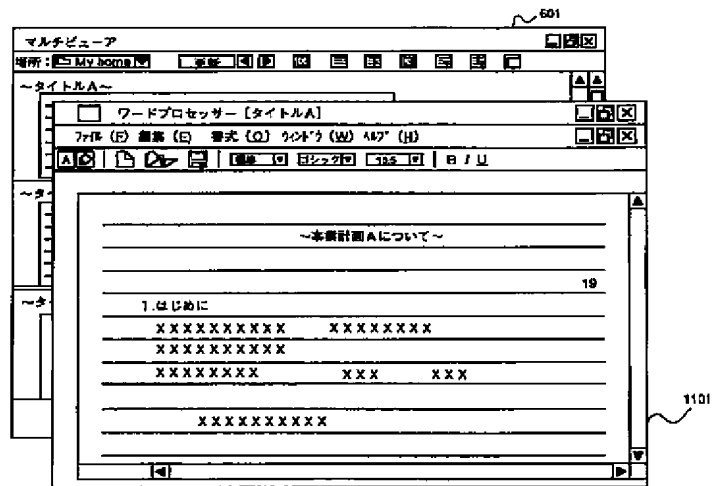
【図8】



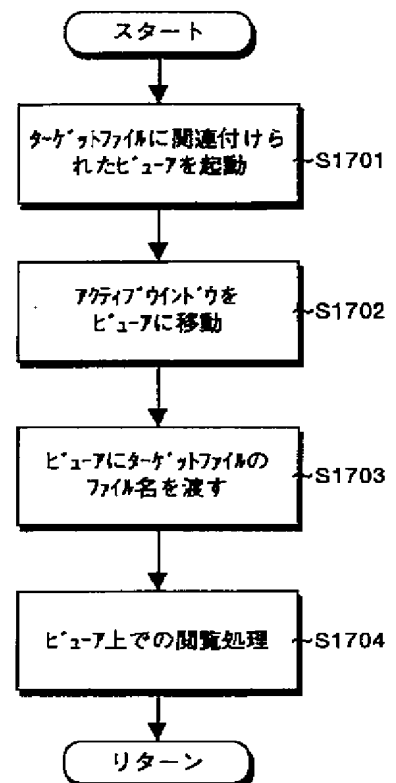
【図10】



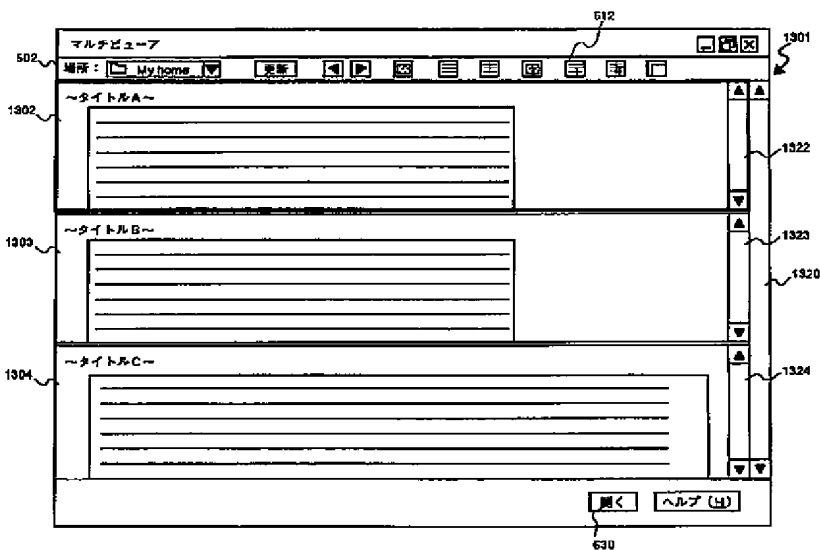
【図11】



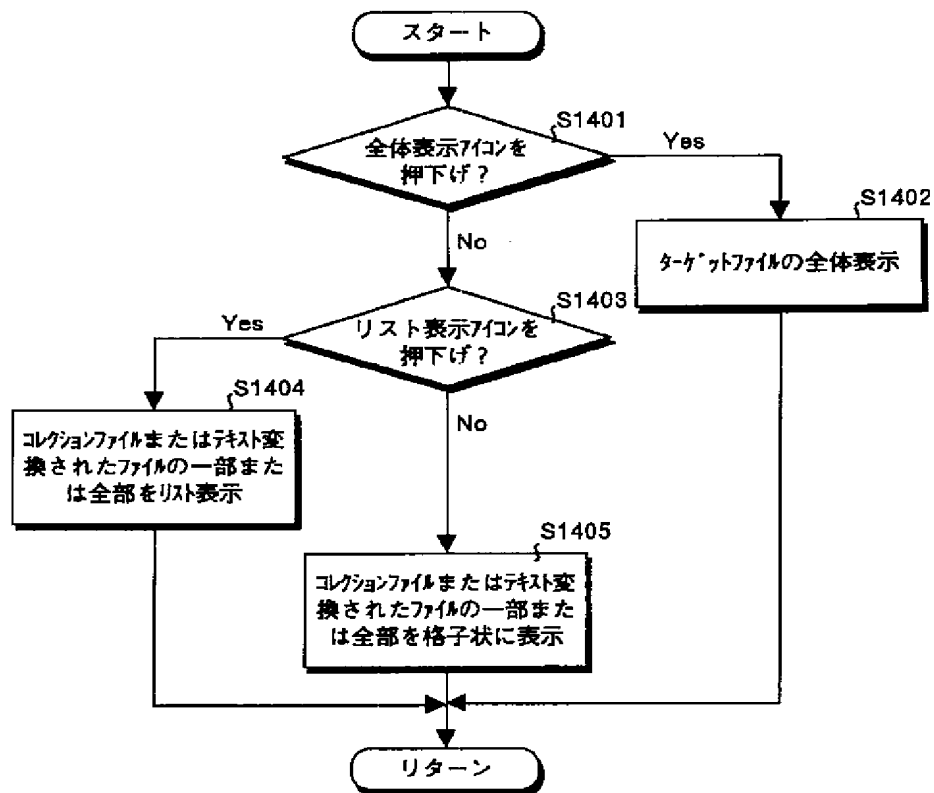
【図17】



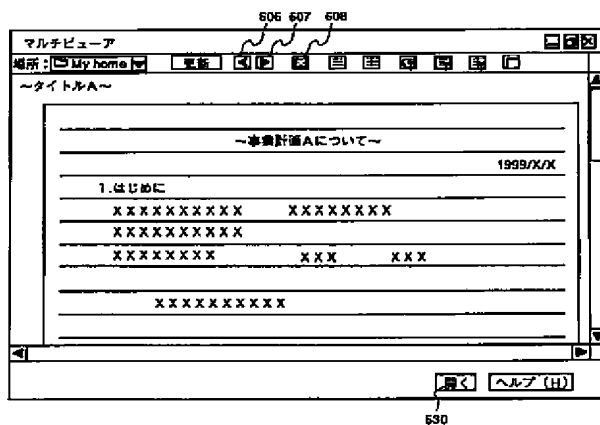
【図13】



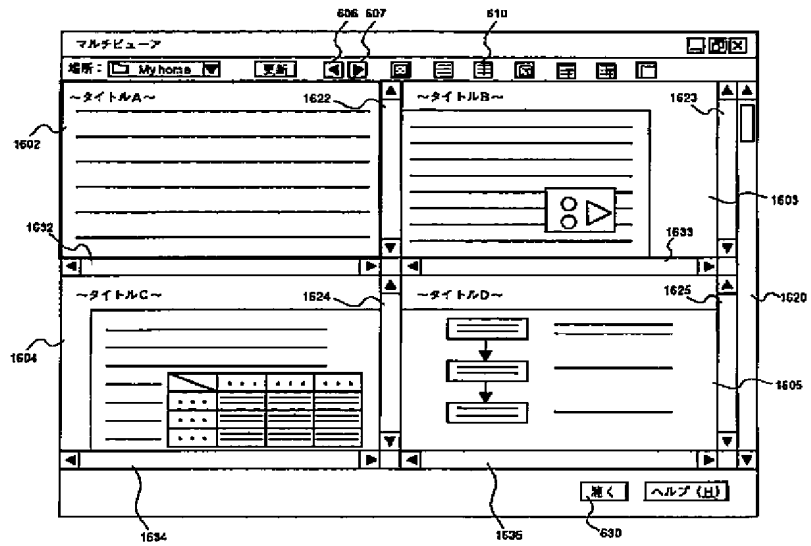
【図14】



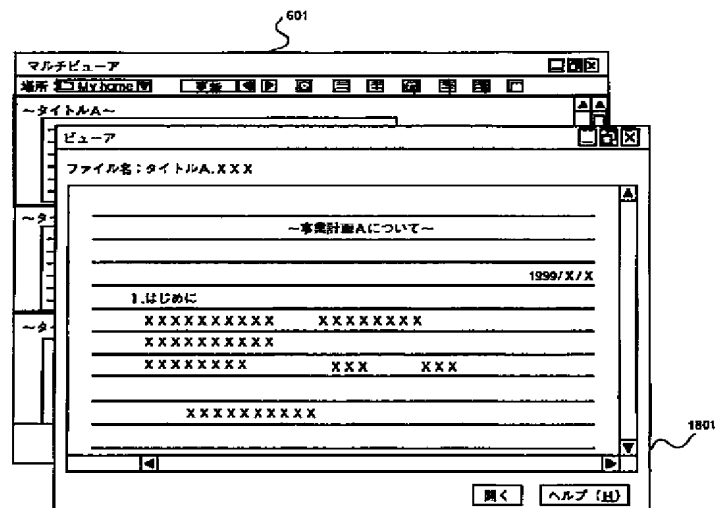
【図15】



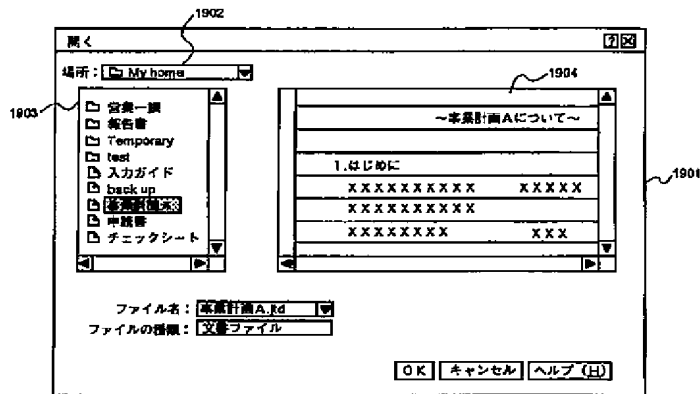
【図16】



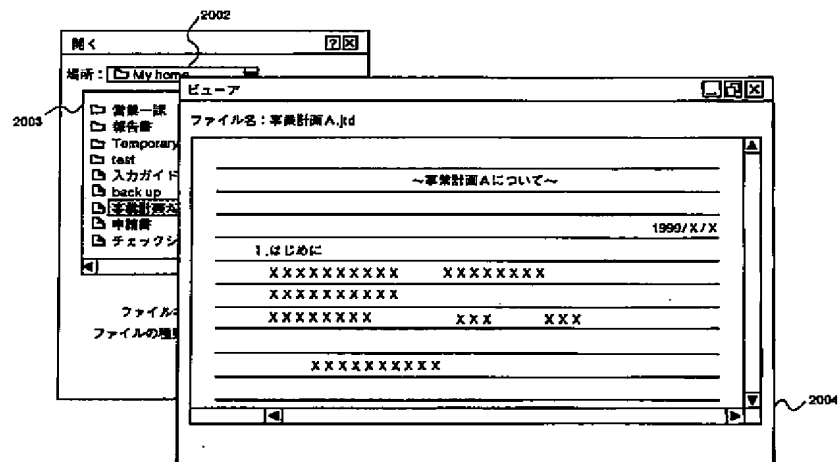
【図18】



【図19】



【図20】



フロントページの続き

(51) Int. Cl.⁷

識別記号

F I

テーマコード (参考)

G 0 6 F 15/403

3 8 0 E

Fターム (参考) 5B009 SA12

5B075 ND03 ND35 NK43 PP03 PP13
PP28 PQ02 PQ46 PQ63 PQ64
PQ66 UU05

5B082 AA11 EA01 GA02 GC01 GC03
GC04

5E501 AA02 AA14 AC20 AC35 BA05
BA10 CA02 CB02 CB09 DA15
EA05 EB05 EB06 FA02 FA05
FA06 FA23